

**DOWA**  
DOWAホールディングス株式会社  
<http://www.dowa.co.jp>

循環型社会の実現に向けて

CSR 報告書 2014

# CSR REPORT 2014

**DOWA**



\*この冊子は森林認証紙および環境にやさしい大豆油インキ(SOY INK)を使用しています

# DOWAのCSR

DOWAグループは、  
「当社は地球を舞台とした事業活動を通じ、  
豊かな暮らしの創造と資源循環社会の構築に貢献する」  
という企業理念に基づき、  
事業活動を行っています。

DOWAグループは、地球と社会の未来を考え、社会的課題の解決に事業を通じて貢献するため、CSRを基盤とした経営に取り組んでいます。また、透明性をさらに高め、ステークホルダーからの信頼をゆるぎないものにするため、さまざまなCSRの取り組みを進めています。

## Contents

### 01 DOWAのCSR

01 編集方針

### 03 CSR経営

03 トップメッセージ

05 DOWAグループについて

07 事業会社紹介

- ▶ DOWAエコシステム
- ▶ DOWAメタルマイン
- ▶ DOWAエレクトロニクス
- ▶ DOWAメタルテック
- ▶ DOWAサーモテック

17 DOWAの事業と社会課題

19 CSR方針と計画

### 21 CSR分野別取り組み

21 Governance

- ▶ 企業統治

27 Safety

- ▶ 安全

31 Environment

- ▶ 環境

39 Society

- ▶ 社会

### 47 ステークホルダーの声

47 アンケート結果

48 第三者意見

#### 〈編集方針〉

DOWA CSR 報告書は、DOWA グループの CSR の考え方と主な活動について、すべてのステークホルダーの方々にわかりやすくお伝えすることを目的としています。

#### (1) 報告対象範囲

##### ■対象組織

原則として、DOWA ホールディングス株式会社と連結子会社（国内・海外）を含むグループ全体を対象としています。ただし、一部の取り組みについては、DOWA ホールディングスおよび主要なグループ会社を対象としています。

2014 年度版より、昆山同和熱処理工業炉有限公司、江西同和資源综合利用有限公司、DOWA ECO-SYSTEM SINGAPORE PTE. LTD. の 3 社の海外子会社を対象に追加しています。

##### ■報告対象分野

本報告書では、DOWA グループの CSR 方針「企業統治」「安全」「環境」「社会」の 4 分野に基づいて構成し、それぞれの方針、重要課題の進捗状況、報告対象組織の取り組みなどを報告しています。

##### ■対象とする読者

お客様、株主・投資家、お取引先、地域、研究者、学生、社員、格付・評価機関、行政、NGO・NPO など、DOWA グループの企業活動に関わるすべてのステークホルダーの方々です。

##### ■対象期間

2013 年度（2013 年 4 月～2014 年 3 月）の活動内容を中心に報告していますが、より正確な情報をお伝えするため、一部については以前からの取り組みや直近の活動についても報告しています。

##### ■参考にしたガイドライン等

国連グローバル・コンパクト

ISO 26000

環境省「環境報告ガイドライン（2012 年版）」

##### (2) Web 版の発行

本報告書では、DOWA グループの CSR 活動の全体像をわかりやすくするために、要点を絞って編集・報告しています。詳細な情報やデータなどは Web に掲載しています（発行予定 2014 年 9 月）。

右記のマークがついた項目については、詳しい情報を Web サイトに掲載しています。なお、CSR 報告書（冊子）の発行後に、掲載内容に誤りがあることが認められた場合は、Web サイトにて報告し、正誤表を掲載します。



##### (3) 基本要件

■発行日 2014 年 6 月

■次回発行予定 2015 年 6 月

■作成部署 DOWA ホールディングス CSR 部門

■HP アドレス

<http://www.dowa.co.jp>（日本語）

[http://www.dowa.co.jp/index\\_e.html](http://www.dowa.co.jp/index_e.html)（英語）

■お問い合わせ

DOWA ホールディングス CSR 部門

〒101-0021 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原 UDX 22 階

TEL：03-6847-1104 FAX：03-6847-1277

メール：info\_dowa@dowa.co.jp

## 事業活動を通じ、 国際社会が抱える 諸課題の解決に寄与する

### 変化に対応し、「成長の継続」を図る

世界経済は、米国や欧州では景気回復の動きが見られる一方、中国やインドなどの新興国については引き続き経済成長は続けているものの、成長率は鈍化しています。日本経済は、極端な円高水準の是正や政府の経済政策効果などにより、回復基調にあります。DOWA グループを取り巻く事業環境は、自動車やスマートフォン、新エネルギー向け製品の需要が伸長する一方、金属価格は総じて弱含み、円安基調の継続という状況にあります。その中で私たちは、中期計画Vに沿って、生産性向上や受注拡大に向けた諸施策を着実に実行し、2013年度も増収増益を達成するなど、事業拡大を継続しています。外部環境が刻一刻と変化する中、今後も着実に、かつスピード感を持って、事業活動を進めてまいります。

私たち DOWA グループは、今年で創業 130 年を迎えました。秋田の地で鉱山・製錬から始まった当社の事業は、1980 年代から事業環境の劇的な変化に伴う多角化や選択と集中を経て現在、5つのコアビジネスからなる独自の循環型事業に変化しています。こうした長年の経験を活かし、今後も不断の努力を続けてまいります。

### 改めて「安全最優先」を徹底

私たち DOWA グループの CSR 方針は、企業統治、安全、環境、社会の 4 つを重要分野と位置付けています。とりわけ安全については、「安全はすべてに優先する」との基本理念に立ち、全従業員が自主的に活動に取り組み、安全衛生水準を向上させるべく、リスクマネジメントや全社安全教育などの施策を推進しています。特に 2012 年度に立ち上げた「全社安全運動プロジェクト」(→P.28)は、事業所を横断した地区単位での合同取り組みを進め、優れた取り組みの横展開

を強化するなど、グループ全体のレベルアップに貢献しており、2013 年度には海外にも取り組みの場を広げています。

安全に近道はありません。一人ひとりが今一度「安全最優先」を再確認し、経営トップをはじめ全員参加の取り組みを続けていきます。

### サプライチェーン全体のCSR強化

私たち DOWA グループの事業活動がグローバルに成長するに伴って、サプライチェーン全体で CSR を推進する必要性も高まっています。2013 年度は、国連グローバル・コンパクトの普遍原則を踏まえ、人権・労働安全や環境保全への配慮を織り込んで、CSR 調達方針を改訂しました。また、金属製品を取り扱う当社にとって、責任ある鉱物調達の推進は重要な課題です。そのため当社は 2012 年度から、紛争鉱物に関する当社の考え方を公開し、当社の使用状況把握や原料調達先に対する調査実施のための管理システムを構築、第三者による紛争鉱物フリー製錬所認証の取得にも取り組んできました。

これらはいずれも、取引先との緊密な連携のもとで成り立つ仕組みです。当社は今後も、お客様が安心して当社製品をご利用いただけるよう、グループ全体でのリスク管理やモニタリング、教育を進め、サプライチェーン全体の CSR 強化に引き続き取り組んでまいります。

この CSR 報告書は、私たち DOWA グループの CSR に関する具体的な取り組みをあらゆるステークホルダーの方々にお伝えするとともに、社員一人ひとりが改めて CSR を意識し、考えることも目的としています。DOWA グループが事業活動を通じてさまざまな社会課題の解決を一層進めていくために、読者の方々の忌憚なきご意見を是非お寄せください。

私たち DOWA グループは、1884 年の創業から今年で 130 年を迎えました。鉱山・製錬業から始まった当社の事業は、外部環境の激変に対応し、現在では 5 つのコアビジネスからなる独自の循環型事業に変化してきました。今後も刻一刻と変化するグローバル市場において、事業活動を通じてさまざまな社会課題の解決へ取り組んでまいります。

DOWA ホールディングス株式会社  
代表取締役社長

山田 政彦

# DOWAグループについて

私たち DOWA グループは、  
5つのコアビジネスからなる循環型事業をグローバルに展開しています。

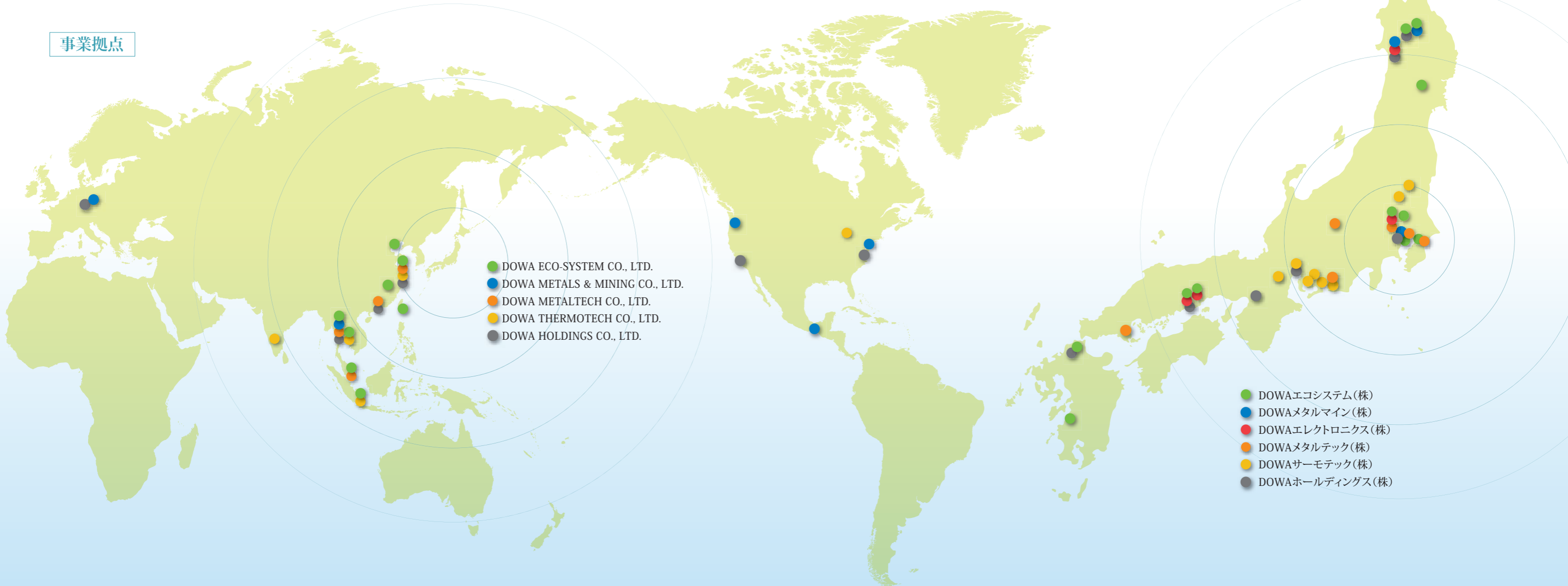
DOWAグループは天然資源から有益な金属を取り出す「製錬事業」、取り出した金属に付加価値を加える「金属加工事業」や「熱処理事業」、こうして生まれた金属材料を高機能化する「電子材料事業」、使用後には無害化し、再利用可能なものは回収・再資源化する「環境・リサイクル事業」――

非鉄金属の生産から高付加価値製品の製造、さらにはリサイクルに至る独自の循環型事業を通じて、世界各地における環境・資源問題など、社会課題の解決に取り組んでいます。

## 会社概要

●商号	DOWA ホールディングス株式会社
●設立年月日	1937年3月11日
●本店所在地	〒101-0021 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX 22階
●代表取締役社長	山田 政雄
●資本金	36,437百万円
●従業員数	約5,700名

## 事業拠点

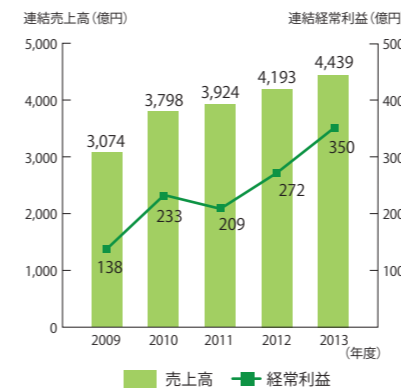


## 2013年度の業績

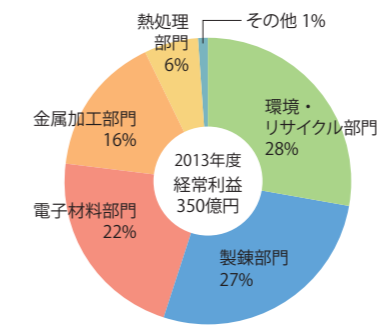
2013年度は、自動車向け製品や多機能携帯端末や新エネルギー向けの需要が伸び、新製品の拡販や設備投資など生産性向上・受注拡大に向けた施策を実行しました。海外では、東南アジアにおける廃棄物処理事業の拡大や、熱処理部門のインドネシア拠点の立ち上げなど、拡大する海外マーケットでの競争力の強化

に取り組みました。また、製錬部門での円安効果などが寄与し、当期の連結売上高は前期比6%増の443,985百万円となり、連結営業利益は同29%増の31,794百万円、連結経常利益は同29%増の35,055百万円となりました。

## 売上高・経常利益の推移



## 部門別経常利益





土壌浄化工事



廃棄物処理工場



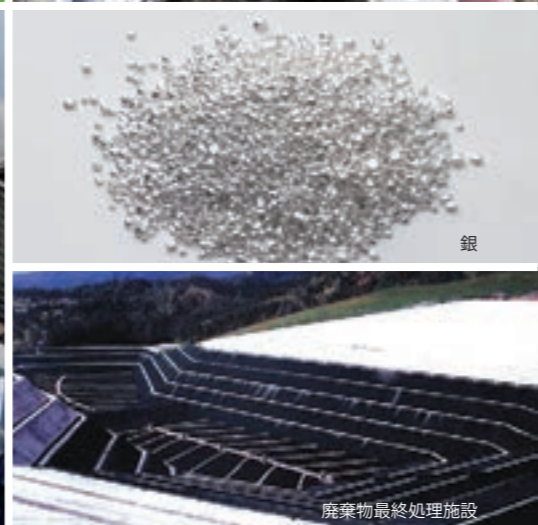
蘇州同和資源综合利用有限公司



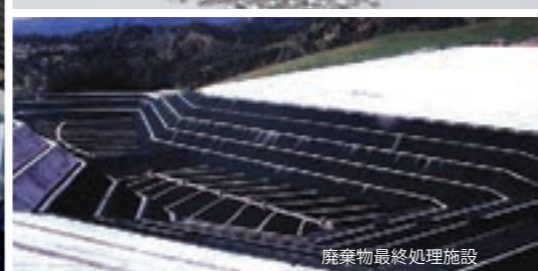
リサイクル原料の携帯電話



家電リサイクル工場



銀



廃棄物最終処理施設

# DOWA エコシステム

環境・リサイクル事業

DOWA エコシステムは、1970 年代から環境・リサイクル事業に取り組み、廃棄物処理・土壌浄化・リサイクルの分野で運搬から最終処理まで一貫したサービスを提供しています。アジアを中心とした海外でもいち早く環境事業を展開し、高い技術力を持つ日中の環境・リサイクル企業として、アジアの環境改善に貢献します。

### 事業分野

- 廃棄物処理事業
- 土壌浄化事業
- リサイクル事業

### 主な商品とサービス

廃棄物処理、管理型最終処理、土壌浄化、金属リサイクル、家電リサイクル、自動車リサイクル、環境コンサルティング、貨物輸送など

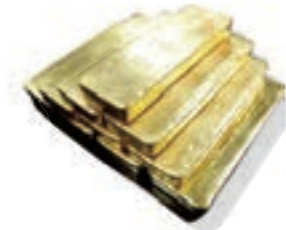
〈DOWA エコシステム主要工場の紹介〉

# 日系初のリサイクル工場として 10年をわたる信頼と実績

これまでの金のリサイクル量は累計で約 3,800kg。高度なリサイクル技術、環境対策技術を有する先進的モデルとして中国の資源循環と環境保全の両立へ向け取り組んでいます。

## 蘇州同和資源综合利用有限公司

所在地／中華人民共和国江蘇省蘇州市蘇州新区三聯街 28 号  
従業員／76 人 (2014.3 末)



## 環境モデル企業として 中国の社会課題に貢献

中国では急速な経済成長により、資源不足の一方、増え続ける廃棄物や環境汚染が大きな社会課題になっています。当社は 2003 年の設立より、資源の有効利用と環境保全の両立を目指し、ダイオキシンなどの厳しい排ガス、排水規制に対応する処理設備を導入し、積極的に環境負荷低減に取り組んできました。

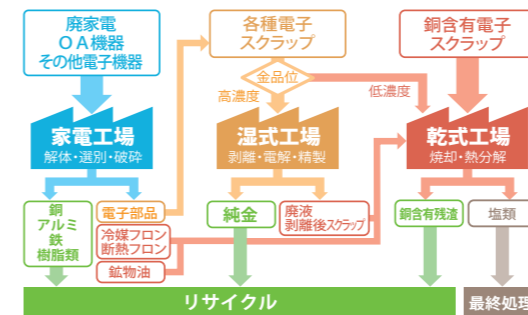
2010 年には家電・湿式・乾式の 3 つの機能を備えた中国初のリサイクルモデルを立ち上げ、多種多様な原料からの金属回収を可能にだけでなく、家電のフロンや湿式工程の廃水を乾式工程で処理するなど、それぞれの工程を組み合わせる最適な処理を行う理想的な工場に進化しました。国際的にも規制を受けるフロンについては、中国国内でリサイクルと処理を同時に行う施

設の例がなく、江蘇省のリサイクル工場 7 社からも受け入れるなど、中国の環境負荷低減に貢献しています。

## 中国家電 3 社会による安全への取り組み

中国では、2011 年「廃棄物電子製品回収処理管理条例」が施行され、家電 5 品目 (テレビ・冷蔵庫・洗濯機・エアコン・PC) のリサイクルが義務化されました。現在、DOWA グループでは、天津市、江西省にも家電リサイクル工場を展開しています。この 3 社で「中国家電 3 社会」を立ち上げ、CSR 方針の重点施策である労働安全に共同で取り組んでいます。3 社会にはローカリストタッフも参加し、作業標準書の見直しや適切な保護具の選定、安全クロスパトロールなどを実施しています。また、スタッフのレベルアップを目的に、選抜メンバーを日本のグループ工場に派遣するなど人材教育も進めています。

最も早く事業を開始した当社は、実績に基づく技術の蓄積とノウハウを活かし、マザー工場として、技術面のみならず安全面でも先導的役割を果たしていきたいと考えています。



## VOICE

〈湿式・乾式工場〉  
副課長 吳春鋒



乾式工場では、危険廃棄物の適正焼却処理を行うことにより、地元の環境保全に貢献するとともに、家電工場で発生する TV 基板などを焼却減量し、銅製錬原料としています。基板には銅以外にも有価元素を含む部品が装填されていますが、前処理工程を追加稼働することで、従来の焼却法のみでは回収できなかったこれらの元素をより無駄なく回収するとともに、収益向上にも貢献しています。また、湿式工場では、LED などの電子部品メーカーで発生する金付治具からの金回収洗浄事業に注力し、回収金量増加に貢献しています。

〈家電解体工場〉  
副課長 譚遵勝



私は現在廃家電の解体工場を担当しています。現在の解体数量目標は月間 5 万台です。今後、法律に基づく解体対象品目が 5 種類から 14 種類へ拡大していきませんが、安全面を考慮した解体手順書の作成を進めたいと思っています。

蘇州の夏は 40℃ 近い高温になります。この季節の作業環境改善にも取り組んでいます。また、今年計画しているテレビ解体ラインの改造でも、安全と効率が両立するよう検討を進めています。

## 2013 年度トピックス

### 設立 10 周年と展示室の公開

2013 年、当社は設立 10 周年を迎えることができました。これまで中国におけるリサイクルのモデル企業として政財界の要人を含む多くの見学者を受け入れていますが、10 周年を機会に地元高新区の技術教育センターの学習施設としても活かせるよう、展示室をリニューアルしました。映像やパネル、実物の家電類を用いたリサイクルの処理フローや当社の環境対策などの展示を通じて、資源の大切さやリサイクルの重要性を学んでいただけるよう工夫しています。地域と共生する先進企業として、資源循環の道筋を示し、地域の環境意識の向上に貢献するため、この展示室を役立てていきたいと考えています。





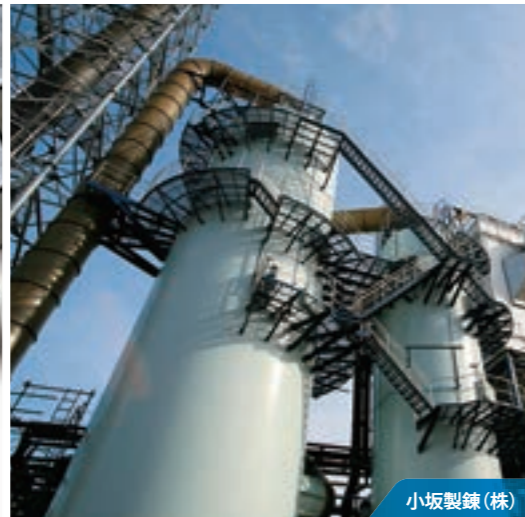
TSL炉



亜鉛電解工場



インジウム



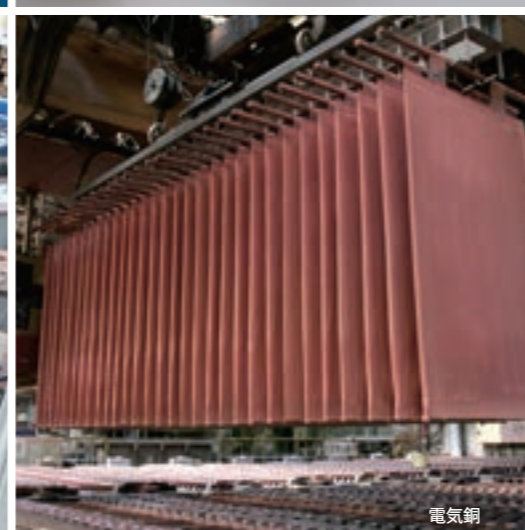
小坂製錬(株)



金



亜鉛加工工場



電気鋼

〈DOWA メタルマイン主要工場の紹介〉

# 多様な原料に対応する、世界屈指の複合リサイクル製錬所

リサイクル原料を主体とする製錬プロセスへの大転換に取り組み、総力を挙げて操業体制を確立。回収元素数の増加など、リサイクルプロセスのさらなる進化を図る。

小坂製錬株式会社  
所在地／秋田県鹿角郡小坂町小坂鉱山宇尾樽部 60-1  
従業員／314人 (2014.3 末)

## 複合リサイクル製錬プロセスの進化

小坂製錬では、2008年に製錬プロセスをそれまで100年以上続いた溶鉱炉・自溶炉方式からTSL (Top Submerged Lance) 炉主体に切り替えました。プロセスと同時に原料も鉱石からリサイクル原料主体にシフトするという、国内外問わず前例のない大転換となりましたが、DOWA グループの総力を挙げて幾多の難題を克服し、安定操業体制を確立することができました。さらにさまざまなリサイクル原料など多様な原料への対応力を高めていくために、2011年度から粗硫酸ニッケル、スズの回収を新たに開始し、回収金属数をさらに増加させています。また2013年度は精錬工程の改善を進め、銀の増産が実現しました。



銀



## 紛争鉱物フリー製錬所

小坂製錬は、サプライチェーンの上流で非鉄金属原料を供給する立場としての社会的責任もしっかり果たしています。2012年秋に紛争鉱物不使用の証であるEICC/GeSiのCFS認証 (Conflict Free Smelter →P.22) を金に関して国内製錬会社として初めて取得、2013年度の更新審査も通過しました。小坂製錬が金地金を供給する直接のお取引先にとどまらず、サプライチェーンのさらに下流に広がる金のユーザー各社に安心していただけるよう、鉱石・リサイクル原料問わず調達先としっかり連携して、紛争鉱物に関するリスク管理を一層徹底してまいります。

## VOICE

〈銅製錬部〉  
貴金属課  
松村 超寛



銀の増産に向けて、貴金属工場では原料処理炉の生産性向上などの諸改善に、製造現場一丸となって取り組んできました。その結果、原料処理量を約1.5倍まで増加させるなど、銀生産量国内 No.1の達成に貢献することができました。原料成分の多様化など、リサイクル原料への転換に伴う課題はまだ山積していますが、一歩ずつ着実にクリアしていきます。

〈生産管理部〉  
生産管理課  
徳本 哲朗



小坂製錬は事業環境の変化に伴い、鉱石原料からリサイクル原料へ転換し、さまざまな非鉄金属地金の生産を行ってまいりました。原料だけでなく、企業に問われる責任についても時代に応じて変化しており、生産者としての責任を果たすべく今回CFS認証を取得いたしました。今後も環境・社会のニーズ変化に柔軟に対応し、信頼される製品づくりを継続いたします。

# DOWA メタルマイン

## 製錬事業

DOWAグループの基盤である製錬事業を行うDOWAメタルマインは、長年培ってきた鉱山・製錬技術を活かし、複数の製錬所のネットワークによる「リサイクル製錬コンビナート」を構築しています。多様な原料から20数種類の金属を回収するリサイクル製錬を通じて、資源循環型社会の構築に貢献します。

### 事業分野

- 貴金属銅事業
- レアメタル事業
- 亜鉛事業

### 主な商品とサービス

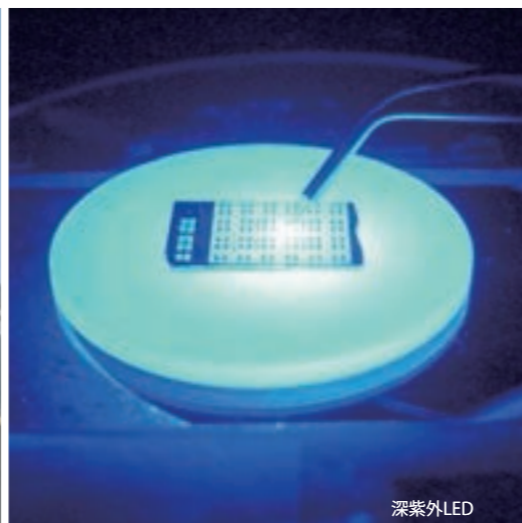
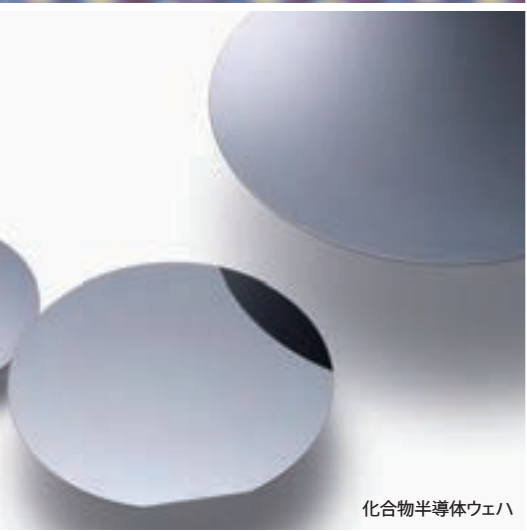
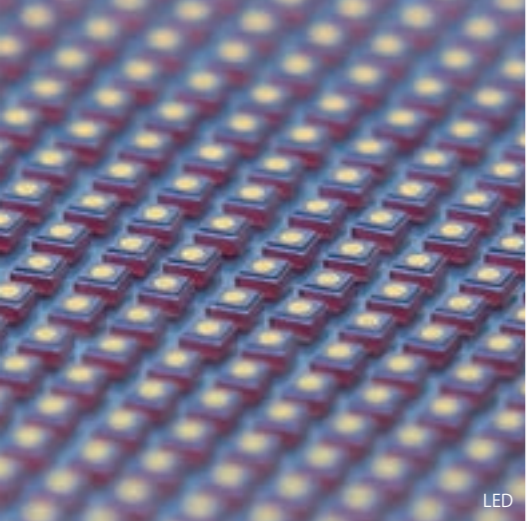
金、銀、銅、亜鉛、亜鉛合金、鉛、プラチナ、パラジウム、インジウム、ガリウム、ゲルマニウム、スズ、アンチモン、粗硫酸ニッケル、ビスマス、テルル、硫酸など

## 2013年度トピックス

### 旧小坂鉄道の機関車や駅舎を小坂町に寄贈

小坂製錬がかつて自溶炉方式だった頃、鉱石や硫酸の輸送で活躍した旧小坂鉄道は、2009年に廃線となりましたが、往時に活躍した機関車やラッセル車を観光資源として活用したいという地元・小坂町の要望に応じて、2014年3月、町にディーゼル機関車などの車両、旧小坂駅舎、軌道跡地などを無償譲渡しました。小坂町では、これらの資産を産業遺産として活用し、機関車の運転体験や展示などを柱とする鉄道テーマパークを整備する計画です。





# DOWA エレクトロニクス

電子材料事業

DOWA エレクトロニクスは、鉱山・製錬事業で回収した多様な副産金属に、微粉体化や高純度化などのさまざまな加工を行い、新たな用途を開拓する取り組みから始まりました。現在では最先端の電子機器向けに開発を進め、高機能化・高性能化に求められる特徴ある半導体材料・導電材料・磁性材料を提供し、その多くにおいて世界的に高いシェアを占めています。

### 事業分野

半導体事業 電子材料事業 機能材料事業

### 主な商品とサービス

高純度ガリウム、インジウム、化合物半導体ウェハ、LED、銀粉、銅粉、酸化銀、メタル粉、キャリア粉、フェライト粉など

〈DOWA エレクトロニクス主要工場の紹介〉

## ボンド用フェライト粉で世界トップの磁気特性

自動車や電気製品に欠かせない磁性材料フェライト。長い歴史の中で培った高度な技術を展開して、世界をしっかりとリードしています。製品の高機能化や新規用途開発のニーズに世界トップのボンド用フェライト技術で応えます。

### DOWA エフテック株式会社

所在地/岡山県久米郡美咲町吉ヶ原 1045  
従業員/36人(2014.3末)

### 独自技術で自動車の環境性能に貢献

DOWA エフテックのフェライトは、樹脂と混合し配向させて使用する「ボンド磁石用ハードフェライト粉」で、プリンターや複写機のマグネットロール、自動車や家電のモーターやセンサーの磁石として広く用いられています。汎用品である焼結磁石に比べ、①寸法精度が高い②形状自由度が高い③割れ、欠けにくいなどの特徴があります。この特徴を活かし、ハイブリッド車に代表されるエコカーのエンジン冷却などに使用されている、電動ウォーターポンプで採用されました。一体成形することで部品数やボリュームを減らし、ポンプの小型化と静音化を実現。部品の小型化は燃費改善やCO<sub>2</sub>削減につながります。自動車には高い環境性能や快適性能が要求されており、モーターやセンサーが数多く搭載されています。今後も当社のフェライト技術を通じて、環境・快適性能の発展に貢献します。



### 自社開発の熱回収設備で省エネに挑戦

フェライト粉は、酸化鉄とアルカリ土類金属を加熱反応させることで製造します。その工程では多くの化石燃料を必要とするため、省エネルギーやCO<sub>2</sub>の削減は大きな課題でした。そこで従来であれば捨てていた熱を無駄なく利用する熱回収設備を自社開発することで、省エネと環境負荷削減に挑みました。

開発当初はさまざまな課題がありましたが、試作と改良を繰り返し、2013年夏から本格運用を開始。原料を高熱で処理する焼結炉の排熱(外気熱)を回収し、別工程で必要な燃焼エアーを予熱することで加熱用燃料の消費を抑え、同時に排水から回収する澱物の乾燥に活用することで廃棄物を削減します。社内の創意・工夫と製造技術の組み合わせにより、省エネとCO<sub>2</sub>の削減を実現しました。



### VOICE

〈開発部〉  
部長  
三島 泰信



当社で開発・製造しているフェライト粉は、樹脂と混合使用する用途に特化させています。粒度分布および粒子形状制御技術による高い流動性を持つフェライト粉を開発することで、高充填・高配向(結晶面の向きを揃えることで磁力向上)を可能にし、約20%の磁気特性向上を実現しました。今までフェライト焼結磁石や希土類磁石しか使用できなかった分野へ採用され始めています。今後もさらに改良を加え、フェライト粉の可能性を広げていきます。

〈製造部〉  
部長  
片山 英紀



フェライト粉製造には、反応させるために多くの熱、粉砕に多くの電気を使用しており、このエネルギーをどれだけ有効活用するかで、コストだけではなく環境への負荷も変わります。昨年実施した熱回収に続き、今年もさらなる省エネを実現し、加えてより厳しい顧客要望に対応できる品質管理システムのレベルアップを達成します。コスト・品質で世界をリードする製品づくりと環境負荷を低減することで、社会に貢献できる会社であり続けたいと考えています。

### 2013年度トピックス

### リスクアセスメントの取り組み

DOWA エフテックでは、社員の安全を守るため、災害につながる不安全設備、不安全作業を抽出し改善するリスクアセスメントの手法を用いて、職場の改善に取り組んでいます。2013年6月、DOWAグループのリスクアセスメント発表会において、応募総数69件の中から当社の「バケットコンベアから脱鉗したペレットを回収・戻し作業時の挟まれ・巻き込まれ防止対策」が優秀賞に選ばれました。これからも事故・災害ゼロの安全な職場を目指し、さらなる改善に取り組んでいきます。

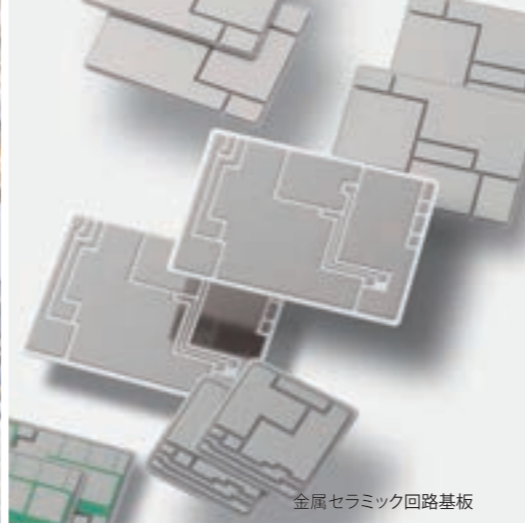




銅合金条



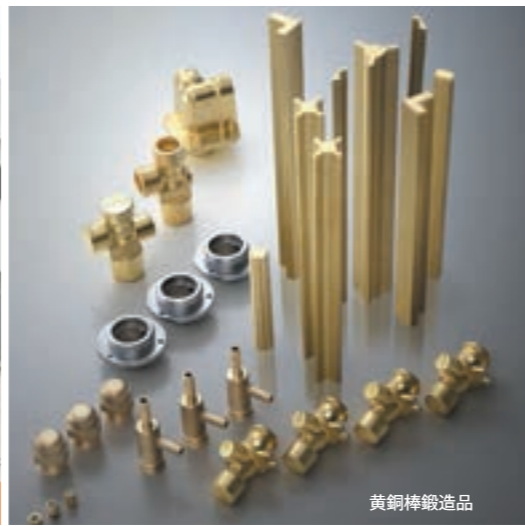
銀めっき設備



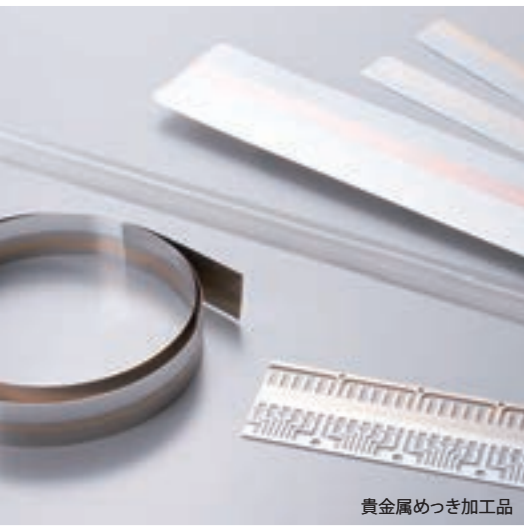
金属セラミック回路基板



DOWA METALTECH THAILAND



黄銅棒鍛造品



貴金属めっき加工品



金属圧延設備

# DOWA メタルテック

金属加工事業

DOWA メタルテックは、自動車や電子部品向けを中心に、高品質な銅合金やめっき品、金属セラミック基板を供給しています。新材料、めっき膜などお客様のニーズと市場のトレンドを見据え、時代を先取りした技術・製品開発に取り組んでいます。また、アジア地域を中心とした拠点を拡大し、お客さまのニーズにタイムリーにお応えできるグローバル供給体制を確立しています。

### 事業分野

- 金属加工事業
- めっき事業
- 回路基板事業

### 主な商品とサービス

銅・黄銅・銅合金の条、ニッケル系合金条、条めっき、黄銅棒、黄銅鍛造品、貴金属めっき加工品、金属セラミック回路基板など

〈DOWA メタルテック主要工場の紹介〉

## 幅広いニーズに応える 多彩なめっきラインナップ

電機・電子関連や自動車関連を中心にアジアの製造産業の集積地となったタイに2006年より進出。メタルソリューションの総合メーカーとして銀・ニッケル・スズめっきの多彩なラインナップを揃えレスポンスの高い現地生産・供給体制を実現しています。

DOWA METALTECH (THAILAND) CO., LTD.

所在地/ Gateway City Industrial Estate, Chachoengsao Province, Thailand  
従業員/ 66人 (2014.3末)

### 日系企業のグローバル化をサポート

DOWA METALTECH THAILAND は、チャチュンサオ県ゲートウェイ・シティ工業団地に位置し、自動車部品の日系メーカーに向けて、条と呼ばれるコイル形状の銅・銅合金の加工、銀・ニッケル・スズを提供しています。DOWA グループの国内工場と同等の最新設備を有し、日本の品質水準で量産することで、タイでの現地調達化を進める日系企業のニーズに対応しています。また、素材となる銅原料も自社グループ内から輸入するため、素材から最終めっき製品までの総合的な品質保証が可能です。

今後は、引き続き成長が見込まれるアジアの自動車市場に対応すべく、工場増設と設備増強を行います。約2倍規模となる新工場では、照明はすべてLED化、自然の風と光を取り入れる工夫を行うなど、環境に配慮した設計となっています。



### 国際資源循環システムの構築

当社は、DOWA グループのネットワークを活用し、工程から排出する金属スクラップのリサイクルフローを自社グループ内で構築しています。めっきに使用される貴金属は、シンガポールや日本国内の製錬所で回収、銅はDOWA メタル（静岡県）で母材（銅）に戻し、再び当社の原料となります。タイ・シンガポール・日本と広域にわたる金属回収を行うことができるのは、リサイクル事業をグローバルに展開しているDOWA グループならではの強みです。



また、当社は国際的な資源循環を確実に実施するため、毎年タイ政府へ、輸送～積み替え～工場への搬入～それぞれのリサイクル工程まで、トレーサビリティを明確にした詳細な行政報告を行い、適正に管理された循環システムのもと、リサイクルを推進しています。

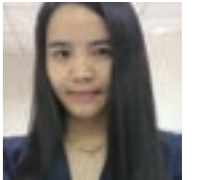
### VOICE

〈製造担当〉  
Supervisor  
Pattaya  
Krongwaeng



私の担当工程は貴金属めっき専用ラインで、銅条に銀もしくはニッケルめっきを加工する工程です。スーパーバイザーとして品質レベル向上のため、工程内で発生するさまざまな異常に対応しています。一例として、めっき加工後の乾燥工程で発生していた乾燥不良に対応するため、既存の乾燥設備に別機種の設備を追加して乾燥不良ゼロを達成し、工程内ロス削減しました。既設ラインの増設や新規ラインの立ち上げに対しても、これまでの経験を活かして対応していきます。

〈環境担当〉  
Safety Officer  
Napaporn  
Bootamkha



Reduce Reuse Recycle を系統的に進めることは、持続可能かつ環境にやさしい企業を目指す当社が重要とする考え方です。一例として、私たちは顧客サービスとして、販売した銅・黄銅品のスクラップを買い取ってリサイクルしています。そのための書類準備や許可申請などの手続きを正しく行うことは環境保護の一環となり、一方で顧客の当社に対する信頼性を高めることになります。それは経営方針「法令を遵守し、環境保護の一貫として省エネルギーおよび3R活動を継続的に行い地球にやさしい企業を目指す。」に基づいた私たちの環境への取り組みの一つです。

### 2013年度トピックス

#### 地元大学の インターン生を 採用

DOWA METALTECH THAILAND では、有給のインターンシッププログラムを設け、地元チャチュンサオ県内の大学（ラーチャナカリン・ラーチャパット大学）から毎年数名のインターン生の受け入れを行っています。2013年度には、3名の学生を受け入れ、機械のメンテナンス部門と経理部門で3か月間の実習を行いました。過去のインターン生には当社に就職し、現在メンテナンス部門で働いているスタッフもいます。これからも当社が地域に根ざし、ともに発展するため、雇用の創出や、現地スタッフが長く当社で働きたいと思えるような職場を目指して、人材育成の充実などに取り組めます。







熱処理炉



熱処理品



プラズマ窒化処理物



(株)セム



熱処理炉



熱処理品



熱処理工程

# DOWA サーモテック

## 熱処理事業

DOWA サーモテックは、金属部品の耐久性向上に欠かせない熱処理技術のパイオニアとして、工業炉製造や加工において規模・品質ともに国内トップクラスのサービスを提供しています。工業炉事業では、生産性が高く競争力のある熱処理炉や新しい表面処理技術の開発などを進め、熱処理加工事業では、浸炭熱処理などの高い技術力を武器に、積極的な海外展開を進め、グローバル総合熱処理メーカーを目指しています。

### 事業分野

熱処理加工事業

工業炉事業

### 主な商品とサービス

各種熱処理、各種表面処理、各種熱処理設備および付帯設備の設計・製造・販売・メンテナンスなど

〈DOWA サーモテック主要工場の紹介〉

# 国内最大級の プラズマ窒化処理

1956年の設立以来、熱処理のメッカ・名古屋の地にて自社開発のプラズマ窒化処理をはじめとする多彩な熱処理ラインナップで不動の地位を確立。2006年のDOWAグループ入り後は、中京地区の主力工場としてDOWA熱処理事業の牽引役を担っています。

## 株式会社セム

所在地/愛知県名古屋瑞穂区浮島町19-1  
従業員/98人(2014.3末)

## プラズマ窒化処理を中核

セムの最大の特長であるプラズマ窒化処理は、1974年に自社開発で工業化に成功、専用炉で受託加工を開始しました。現在は自動車AT(オートマチック)部品を中心に年間500万個の処理体制を誇っており、1拠点では国内最大級の規模です。DOWAサーモテック唯一のプラズマ処理拠点として、コストや処理適用範囲など顧客のニーズに応じたオールラウンドの窒化処理を展開しています。

顧客層が自動車業界のみならず、建設機械、産業ロボット、船舶、航空など多岐にわたっていることも、セムの特長です。プラズマ窒化処理以外にも、アルミ合金熱処理やガス浸炭処理など多彩な熱処理ラインナップを揃えており、これら幅広い顧客層の多種多様なニーズに的確に応える体制を敷いています。



## 工場リニューアルを機に 安全・品質・生産性を一層向上

セムは会社設立以来実に半世紀以上が経過しており、築30~40年の工場建屋の老朽化や業容拡大に伴う工場レイアウトのやり繰りなど、既存建屋での対応に年々無理が生じてきていました。中京地区において今後も長きにわたり安定な事業基盤を確保すべく、2011年度から3ヵ年計画で主力2工場(S2工場:プラズマ窒化、N2工場:ガス浸炭)の建替プロジェクトに着手しました。

S2工場は従来3箇所に分散していたプラズマ窒化炉16基を同じフロアに集約、作業者の無駄な移動のゼロ化や設備管理の強化で生産性を向上させると同時に、上下階のクレーンによる製品吊り上げ作業も廃止して安全性を高めました。N2工場でもレイアウト見直しによる無駄な運搬作業の廃止や未処理・完成品の分離、熱処理設備と作業場の分離による作業環境の大幅改善など、安全・品質・生産性のさらなる向上を図ることができました。

## VOICE

〈品質管理部〉  
河村 孝太郎



今回3ヵ年計画にてプラズマ窒化処理工場の建替え、浸炭工場の建替えを実施し老朽化した建屋をリニューアルしました。2工場の建替えを順次実施していくに当たり、建設と顧客への工程変更申請、またそれに伴う品質確認、変化点管理を並行して進めることができたのは従業員全員での協力があったことだと実感しております。

今後、この名古屋の地で20年、30年と操業していくに当たり、今回の工場建替をスタート地点とし、今まで以上の品質向上、幅広い顧客ニーズへの対応に取り組んでいきたいと思っています。

〈生産技術課〉  
河野 成宏



2011年に始まったS工場の建設、そして今回のN工場の建設と約3年にわたり、建設の担当を務めてきました。今回の建設では、操業しながらの工事であったため、時間や工事エリア等の制限が多く、なかなか計画どおりに進まないこともありましたが、みなさんご協力のおかげで事故も無く、建設を終えることができました。この場を借りて、感謝申し上げます。

また、今回の大変な建設を乗り切ったセムのメンバーであれば、ここからさらに良い工場を目指すはず。自分達の工場を、自分達の手でより良いものにできるよう、今後も取り組みを続けていきたいと思っています。

## 2013年度トピックス

## 2013年度 QC大会にて 金賞、銀賞を受賞

セムでは熱処理技能など各種資格取得を奨励しており、中でも熱処理技能士(1級)の女性社員3名を擁するなど、一工場としての有資格者数はDOWAサーモテック内で最大数を誇っています。こうした社員の資格やスキルを活かして、日頃から活発な改善活動を展開しています。その成果として、DOWAサーモテックグループで毎年開催されているQC活動発表会において、セム代表チームは昨年度金賞、銀賞を受賞、さらに改善提案の提出件数最多賞を4年連続で受賞。今後もさらなる高みを目指して、活動を推進していきます。



# DOWAの事業と社会課題

## 事業リスクの認識

DOWAグループでは、企業理念の実現、経営計画を達成する上で阻害要因となるリスクを適切に管理し、社会的責任を果たし、

かつ当社の持続可能な企業価値の向上に資することを目的として、リスクマネジメントに取り組んでいます。グループを取り巻く事業

リスクのうち、「経営リスク」は取締役会等が、「CSRリスク」はCSR部門が各部門と連携して対応します。

## 経営リスク

経営成績、株価および財務状況等に影響を及ぼす可能性のある外部リスクについては、右のような項目が挙げられます。詳細については、DOWAグループのアンニュアルレポートに掲載しています。

[http://www.dowa.co.jp/jp/ir/library\\_note.html](http://www.dowa.co.jp/jp/ir/library_note.html)

世界経済情勢
地金相場、為替相場
公的規制
株価の変動
金利の変動
災害や停電

## CSRリスク

DOWAグループでは、持続可能な事業活動のため、「環境」「社会」「ガバナンス」の側面におけるリスクの洗い出しと評価の見直しを開始しました。2013年度は個別事業所を対象として、現在のリスクと対策状況、中長期におけるリスク増大等について、

CSR部門によるリスク調査を実施し、事業所と事業会社別の重要リスクを抽出しました。2013年度の重要リスクは下表のとおりです。

### ○海外事業所のリスク

上記のリスクに加え、海外の事業所においてはガバナンス側面の課題として、危機

管理、不正防止が重要なリスクとして挙げられました。

今後、本結果を踏まえ、全社の重要リスクを特定し、対策を立案・実行していきます。また、対策の進捗状況をモニタリングし継続的に改善する活動を展開することで、全社的なリスク対策の強化と改善を図っていきます。

### 〈重要リスク〉

側面	リスク	取り組み内容の例
環境	法規制	国内法改正、規制・基準強化、REACH規則/RoHS指令など海外規制、事業所・製品取引全般に係る法規制の情報収集と対応
	環境保全	大気、水質、騒音、悪臭対策、化学物質管理、温暖化対策等
社会	安全衛生・健康	無事故・無災害、メンタルヘルス対策等
	品質	品質の確保・向上、品質管理体制の確立等
	教育	従業員教育・研修制度の整備、技能伝承、キャリア支援等
ガバナンス	大規模災害	地震、津波、洪水等の防災・減災対策等

## 事業活動を通じた社会課題解決への取り組み

### 「限りある金属資源の持続可能な利用」への取り組み

2010年に発行されたCSRの国際規格ISO26000において、社会的責任の目的は「持続可能な発展に貢献すること」と定義されました。環境、水、食糧、貧困…社会が抱える課題は多岐にわたりますが、中でも「資源の有効利用」は、金属資源を利用することで成り立っている当社の事業にとって最も身近な領域であり、重要な社会課題です。

### 資源循環社会へ多面的アプローチ

天然資源である鉱石は、消費し続ければいずれは枯渇します。リサイクルは重要な解決策ですが、金属を効率的に回収する技術、その過程で発生する有害物や非有用物を安全に処理するための技術とインフラも必要です。同時に、効率的にリサイクル原料を集荷する社会システムの構築、多種多様な原料を処理する手間やコストなど、リサイクルにも解決すべき技術的・経済的な課題が含まれています。

DOWAグループでは、貴金属、家電、自動車、使用済み小型家電など幅広いリサイクル事業を国内外で展開していますが、リサイクルだけを行うのではなく、自社が有する廃棄物の中間処理施設や研究所、運輸部門を活用し、さまざまな側面から資源の有効活用に向けて課題解決の取り組みを進めています。

## 社会課題に対するDOWAグループのアプローチの例



DOWAグループは、このような課題と向き合いながら、事業を通じて持続可能な金属資源の利用に貢献していきます。

# CSR方針と計画

## CSR方針と重点施策

DOWAグループの「CSR方針」は、長期的な視野でCSR活動を推進するため、国連グローバル・コンパクトの原則を踏まえ、DOWAグループの企業理念と行動規範に則り策定しました。DOWAグループは、この方針に基づき、経営と一体となったCSR活動の実践を通じて、社会への責任を果たしていきます。また、実効性のあるCSRを推進するため、グループ報やイントラネットなどを活用し、グループ内への浸透・定着を図っています。

また、CSR方針の制定時にISO26000の中核課題を元に自己評価を行い、方針の実践に当たりDOWAグループが優先的に取り組むべき重点施策を設定しました。企業としての責任ある経営を推進するため、これらの施策の展開に取り組んでいます。

	CSR方針	重点施策
<b>Governance</b> 企業統治	<ul style="list-style-type: none"> <li>開かれた会社、透明感のある会社を目指す</li> <li>国際的な取り決めに配慮し、贈収賄などの腐敗防止に努める</li> <li>CSRに配慮した調達を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内部統制およびガバナンスの強化</li> <li>CSR調達ガイドラインの策定</li> </ul>
<b>Safety</b> 安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>「安全はすべてに優先する」との基本理念に立ち、全従業員が自主的に活動に取り組み、安全衛生水準の向上を目指す</li> <li>労働災害を防止し、従業員の健康づくりを支援する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスクアセスメントの充実化</li> <li>全社安全教育の強化</li> </ul>
<b>Environment</b> 環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様に対し、循環型社会の構築に寄与する製品・サービスを提供する</li> <li>事業活動における環境負荷、環境リスクを低減する</li> <li>経営陣から従業員に至るまで、一体となって環境保全活動に取り組む</li> <li>生物多様性に配慮した事業活動を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境対応製品、新エネルギー分野への展開</li> <li>生物多様性調査およびガイドラインの策定</li> </ul>
<b>Society</b> 社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域特性に応じた社会貢献を地元と一体となって推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランス推進</li> <li>CSR教育の推進</li> <li>地域貢献</li> </ul>

## 2013年度の主な活動実績

DOWAグループは、CSR方針および重点施策に基づき4つの分野でそれぞれの目標を定め、CSR活動に取り組んでいます。2013年度の活動成果・進捗状況を踏まえて、今後も継続的改善に取り組んでいきます。2013年度の重点取り組みの詳細と2014年度の課題については次ページ以降の分野別の取り組み状況において、詳細にご報告いたします。

〈2013年度活動実績〉

重点分野	目標	施策	評価	主な実績	参照頁
Governance 企業統治	内部統制・ガバナンスの強化	海外事業所の内部統制強化	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規連結会社への内部統制整備活動支援</li> <li>中国ならびに東南アジア各社へ訪問指導</li> <li>内部統制説明会の実施（約260名参加）</li> </ul>	P21
	CSR調達の推進	CSR調達方針の策定	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>紛争鉱物調達に関する基本方針の策定</li> <li>金に関するCFS認証を2社取得</li> <li>CSR調達方針の策定と公開</li> </ul>	P22 P26
	全社CSR活動の推進	—	—	—	
Safety 安全	リスクマネジメントの充実化	安全運動プロジェクトの全社展開	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>全社説明会（キックオフ）</li> <li>地区会議の立ち上げ</li> </ul>	P28
	全社安全教育の強化	海外での取り組み強化	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>東南アジア物流安全活動支援</li> <li>中国安全大会の活動充実化</li> </ul>	P29, 30
		危険体感教育の継続実施	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険体感教育の支援（306人受講）</li> </ul>	P27
Environment 環境	温暖化対策	温室効果ガス総排出量の削減	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>温室効果ガス排出量：CO<sub>2</sub>換算1,718千トン</li> <li>国内温室効果ガス排出量 前年比16%増加</li> </ul>	P35
		グループ内の温暖化対策の取り組みに関する情報共有	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所ごとの取り組み状況のアンケートの実施と現状把握</li> </ul>	P35
	資源循環の推進	リサイクル技術の開発強化	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>銀生産量の増加</li> <li>銅電解技術の改善</li> <li>北米・アジアからのリサイクル原料集荷増</li> </ul>	P10 P31
	環境対応製品、新エネルギー分野への展開	LCA品目の選定	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>LCAは未実施</li> </ul>	P31
		環境対応製品、新エネルギー分野への展開	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>新エネルギー関連製品向け金属セラミック回路基板の増産</li> <li>環境コンサルティング分野で太陽光発電、洋上風力に関する業務の受注増</li> </ul>	P38
	生物多様性の保全	生物多様性保全のための方針の策定	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性調査およびガイドラインの策定</li> </ul>	P32
森林育成・管理の継続実施		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>森林育成の推進（秋田県小坂町で広葉樹の苗木約5,400本の植樹、森林管理の推進）</li> </ul>		
Society 社会	ダイバーシティの推進	高齢者活用の推進	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで再雇用制度を改定し、定年年齢に到達した社員がやる気を持って働く環境を整備</li> </ul>	P45
		障がい者雇用の推進	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>法定障がい者雇用率未達成</li> <li>定年退職者再雇用者数の増加</li> </ul>	
	ワーク・ライフ・バランス推進	次世代育成支援行動計画の策定	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代育成支援行動計画策定、公示</li> <li>子育て支援制度の認知度向上</li> <li>労働時間短縮に関する労使の取り組み加速と新システム導入による労働時間管理の徹底</li> </ul>	P46
			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入社員を対象としたアンケートの実施</li> <li>計画年休など有休取得率向上のための取り組みの実施</li> </ul>	P46
	地域貢献	地域状況に応じた社会貢献活動の拡充	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外事業所の地域貢献情報の収集</li> </ul>	P40
			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域イベントの主催・運営（マラソン大会、クロスカントリースキー大会、さくらまつりなど）</li> </ul>	P43
CSRの社内浸透	社内向けCSRポータルサイトの充実化	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>メールニュースの発行</li> <li>CSR重点施策に関する解説（CSR調達や労働安全など）の掲載</li> </ul>	P39	

# Governance

DOWA グループは、コーポレート・ガバナンス（企業統治）の強化を経営の最高課題の一つとして位置付け、「DOWA グループの価値観と行動規範」に基づき、内部統制の効果的かつ効率的な体制整備と運営に、全社を挙げて取り組んでいます。また、近年は、企業活動のグローバル展開に伴い、サプライチェーンを通じた活動の重要性が増してきています。



## CSR 方針

- 開かれた会社、透明感のある会社を目指す
- 国際的な取り決めに配慮し、贈収賄などの腐敗防止に努める
- CSR に配慮した調達を行う

活動の進捗状況 企業統治分野における活動状況と、2014年度の課題は以下のとおりです。

企業統治/Governance 目標	2013年度			2014年度	
	施策	評価	主な実績	課題	指標
内部統制・ガバナンスの強化	海外事業所の内部統制強化	○	●新規連結会社への内部統制活動支援 ●中国ならびに東南アジア各社へ訪問指導 ●内部統制説明会の実施(約260名参加)	国内外 個別各社活動支援	国内外 10社
CSR 調達の推進	CSR 調達方針の策定	◎	●紛争鉱物調達に関する基本方針の策定 ●金に関するCFS認証を2社取得 ●CSR調達方針の策定と公開	CSR 調達ガイドラインの策定 CSR 調達社内教育の推進 紛争鉱物管理システム運用	説明会の開催
全社 CSR 活動の推進	-	-		CSR 中期目標の設定 重点施策の見直し	

## 内部統制・ガバナンスの強化

2013年度は、中国ならびに東南アジア各社へ訪問指導を実施しました。また、内部統制への理解を進めるため説明会（国内）を実施し、約260名の社員が参加しました。2014年度はこれまでの内部統制の強化の一環として、国内、海外の事業所に対し、それぞれの実情に合わせた活動の支援を個別に実施します。

## CSR調達

2013年度は調達方針の見直しを行い、新たにCSRに配慮した調達方針を策定、公開しました。2014年度は、方針に基づくCSR調達ガイドラインの整備と実際の運用に向けて、社内教育やサプライヤーへの説明を推進します。

紛争鉱物については、小坂製錬に続き、エコシステムリサイクルが、コンフリクト・

フリー製錬業者の認証を取得し、責任ある鉱物調達に取り組む顧客に紛争に関わらないリサイクル金の提供を開始しました。

## 全社CSR活動の推進

2014年度は、事業活動を通じたCSR活動を強化するために、これまでのCSRの活動成果・進捗状況を踏まえてCSR中期目標の設定と重点施策の見直しを行います。



## 紛争鉱物フリー製錬所認証取得

DOWA グループでは、サプライチェーン全体の取り組みとして「CSR調達」を重点施策として取り組んでいます。なかでも、金属資源を主要製品として扱う当社は、お客様とともに責任ある鉱物調達を推進するため、EICC/GeSI<sup>®</sup>の紛争鉱物フリー製錬所（CFS：Conflict Free Smelter）認証を取得しました。

※ EICC：Electronic Industry Citizenship Coalition  
GeSI：Global e-Sustainability Initiative



## 紛争鉱物について

紛争鉱物とは、コンゴ民主共和国とその周辺国から産出される金、タンタル、スズ、タングステンのうち、当地における武装勢力や反政府組織の資金源になっているものを指します。アメリカでは、米国証券取引委員会（SEC）が2012年8月採択した「ウォールストリート改革および消費者保護法」（通称ドッド・フランク法）の最終規則において、米国で上場している企業は、2013年1月～12月を初年度として自社商品に「紛争

鉱物」を含むか否かをSECに報告することが規定されました。

## サプライチェーンを通じた当社の取り組み

DOWA グループは米国上場企業ではないため、紛争鉱物に関する報告の義務は負っていません。しかし対象となる製品は自動車、電子機器、電化製品と膨大に存在し、原料調査のためサプライチェーンを遡ること、やがては当社のような素材メーカー、

製錬会社に至ります。

このため、当社も2011年より紛争鉱物対応の検討を開始しました。まず、2012年8月、紛争鉱物についてDOWAグループの考えを方針にとりまとめ、公開しました。さらに、実際の当社での使用状況や原料調達先に対して調査を実施するための管理システムの構築と、責任ある鉱物調達に対応する製錬所として第三者の証明を受けた紛争鉱物非関与の金属を提供することなどを柱とした取り組みを進めました。

## 「DOWA グループ紛争鉱物管理方針」

DOWA グループでは直接的に紛争鉱物を調達していないことはもとより、「紛争鉱物」を使用しないための対策を進めており、2012年に「紛争鉱物に関する調達方針」（不使用の宣言）を公開、2013年12月にこれを改訂の上「紛争鉱物管理方針」として公開しました。

### DOWA グループ紛争鉱物管理方針

[www.dowa-csr.jp/about/procurement\\_policies.html](http://www.dowa-csr.jp/about/procurement_policies.html)（日本語）  
[www.dowa-csr.jp/en/csr/procurement\\_policies.html](http://www.dowa-csr.jp/en/csr/procurement_policies.html)（英語）

## 責任ある鉱物調達のためCFSを取得

数ある製品に含まれる紛争鉱物の調査を行うことは困難であるため、電子業界のCSR推進団体であるEICC<sup>®</sup>とICTセクターにおける経済、環境、社会の持続可能性を推進するGeSIでは、最も上流に近い製錬所を監査し、「紛争フリー製錬」として認定するプログラム（CFS認証制度）を実施しています。紛争フリーと認定された製錬所から出荷される金属は、紛争鉱物ではないと見なされる仕組みです。このプログラムでは、独立した第三者機関が製錬/精製業者の調達活動を評価し、これらの業者が扱うすべての鉱石が紛争フリーの鉱山、採掘場から採取されたものか、もしくはリサイクル材料かどうかを判断します。具体的には、業者の調達方針や

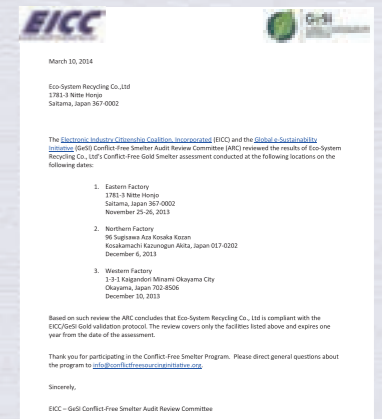
行動規範、調達材料の分析プロセス、調達先の決定方法、そしてリサイクル材料の定義が適切かどうかなどを現地監査と文書確認を通じて検証します。

DOWA グループは2012年より、製錬所として紛争鉱物非関与の金を提供するため認証取得準備を進めました。

金・銀・銅をはじめ多種類の非鉄金属を取り扱う複合リサイクル製錬所である小坂製錬では、2012年8月に金に関するCFS認証を取得、2013年8月には更新審査を通過しました。また貴金属リサイクル（二次精錬）のエコシステムリサイクルでも、同じく金に関するCFS認証を2013年12月に取得しています。

いずれの認証も、お取引先（サプライヤー）のご理解・ご協力のもとで、紛争鉱物不使用の証明が実現しました。

今後も、サプライチェーンの下流のお客様に安心してDOWAグループの供給品をご利用いただけるよう、事業所のみならずグループ全体でのリスク管理や取引のモニタリング、教育などを推進します。



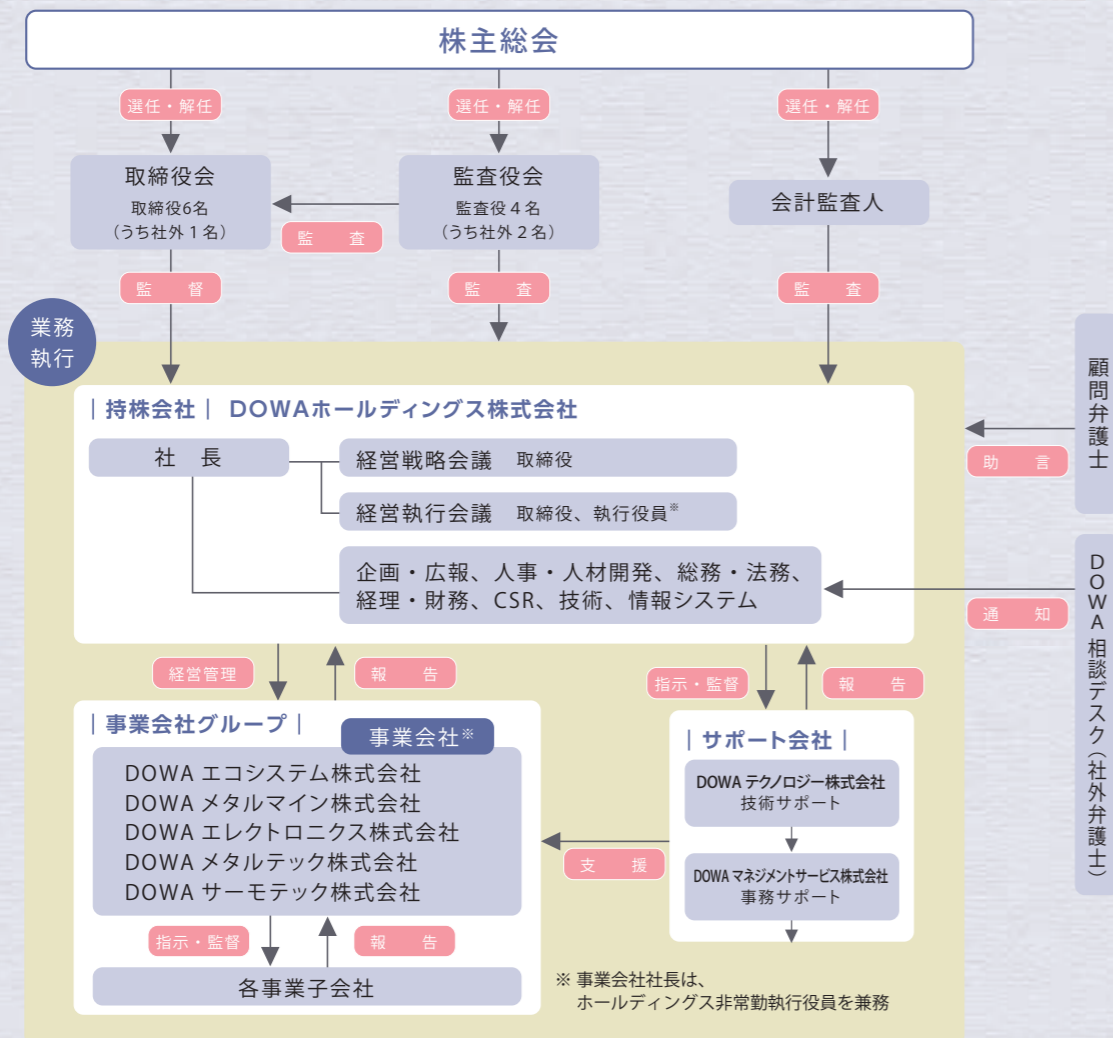


## コーポレート・ガバナンス体制

DOWA グループでは、健全かつ効率的に組織を運営すると同時に、意思決定の迅速化と経営の効率化のため、執行役員制を採用するとともに、持株会社制を導入して事業部門を子会社に分離しています。

また、「DOWA グループの価値観と行動規範」に則り、健全な企業経営を保障し、経営の品質と効率を高めるとともに、透明性の高い開かれた経営の実現に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制 (2014年3月現在)	
組織形態	監査役設置会社
取締役の人数	6名(定款上の員数:13名)
うち、社外取締役の人数	1名(独立役員に指定)
定款上の取締役の任期	1年
取締役会の議長	社長
監査役の人数	4名(定款上の員数:5名)
うち、社外監査役の人数	2名



## 内部統制活動

DOWA グループではコーポレート・ガバナンスの強化を図るため、ホールディングスとグループ各社が内部統制の基本方針や基本システムを共有するとともに、具体的な活

動では各社ごとの独自性を活かせるようにすることで、持株会社制に合わせた効果的かつ効率的な内部統制を図っています。

内部統制の整備運用の一例としては、DOWA 相談デスクの設置や内部監査の実施により、不正や不祥事の未然防止と早期発

見を図り、必要に応じて適切な措置を講じます。また、内部統制システムは、事業内容や社会環境の変化に合わせて見直しを続けなければならないものであり、システムの整備を一層強力に進めています。

## ステークホルダーとの関わり

DOWA グループでは、各事業所・部門において、お客様、株主・投資家、お取引先、地域社会、社員などの主たるステークホルダーとさまざまな手段でコミュニケーションを実施しています。

主たるステークホルダー	責任	機会
お客様	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品・サービスの品質・安全確保</li> <li>環境配慮製品の提供</li> <li>お客様満足 (CS) の追求</li> <li>お客様情報の適切な管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種セミナー・展示会</li> <li>工場見学会</li> <li>各種環境広報</li> <li>Web サイトでの情報開示</li> </ul>
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業価値の最大化</li> <li>配当</li> <li>情報開示・対話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>株主総会</li> <li>決算説明会、投資家向け説明会</li> <li>アニュアルレポートや事業報告書の発行</li> <li>Web サイトでの情報開示</li> </ul>
お取引先	<ul style="list-style-type: none"> <li>公平・公正な基準による調達先の選定</li> <li>サプライチェーンにおける CSR・環境活動の支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種セミナー・展示会</li> <li>工場見学会</li> <li>グリーン調達などお取引先への各種説明会</li> <li>品質・環境監査</li> <li>企業倫理窓口</li> </ul>
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境保全活動</li> <li>文化・スポーツなどの活動支援を通じた地域振興への貢献</li> <li>教育活動</li> <li>情報開示・対話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々を対象にした工場見学会</li> <li>地域団体への参加</li> <li>地域イベントの主催・参画・支援</li> <li>リスクコミュニケーション</li> </ul>
社員 (社員・家族)	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な評価・処遇</li> <li>人材の多様性確保</li> <li>ワーク・ライフ・バランスの推進</li> <li>労働安全衛生の確保</li> <li>人材育成</li> <li>人権の尊重</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営会議</li> <li>労使面談</li> <li>人材教育・環境教育</li> <li>グループ報、ポータルサイト</li> <li>社員の家族を対象とするエコイベントなど</li> </ul>

## 政府・自治体・産業界との関わり

DOWA グループは、政府や産業界における審議会やフォーラムに参加し、社会的課題の解決に向けた提案や施策の検討、法制度の制定・見直し、国際的な連携など、公共政策に関する活動を推進しています。



DOWA ホールディングス代表取締役社長 山田 政雄  
 2013年 2月～ 環境省 中央環境審議会 委員  
 2012年 12月～ (社) 日本経済団体連合会 環境安全委員会 廃棄物・リサイクル部会 部会長  
 2012年 4月～ (財) 資源環境センター 理事長

また、日本および各国の政府機関が開催する国際会議等に積極的に参加し、産業界の立場から各種政策策定に貢献しています。

## 「第3回日米欧クリティカルマテリアル会合」にて講演

2013年5月、欧州委員会・米国エネルギー省・日本の経済産業省の主催によりベルギーのブリュッセルで開催された「第3回日米欧クリティカルマテリアル会合」において、DOWA エコシステムの白鳥環境ソリューション室長が、日本の民間企業の代表として、日米欧のリサイクルの特徴や比較、クリティカルメタル回収の最新動向などについて講演を行いました。

会合では、レアアースの採掘・抽出技術、代替・低減技術、リサイクル技術等を開発することの重要性が確認され、今後も政府関係者、産業界、研究者等が一体となり、三極で協力的体制を構築していくことが合意されました。



## 国際機関・国際コンソーシアムへの参画

DOWA グループは、2009年3月より国連が提唱する企業の自主行動原則である「グローバル・コンパクト」に参加しています。社会の持続的発展に向けて、グローバル・コンパクトの掲げる「人権・労働・環境・腐敗防止」の4分野における10原則を尊重し、確実に実践していくよう取り組んでいます。

○グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク <http://www.ungcn.org>



## 人権への取り組み、腐敗防止

DOWA グループは、国連グローバル・コンパクトの10原則のもと、国籍、人種、民族、宗教、性別、年齢、障がいなどによる不当な差別や、児童労働、強制労働を禁じ、腐敗防止に取り組んでいます。

人権については、毎年海外事業所を含む事業子会社にアンケート調査を実施し、現状把握に努めています。

また、2013年度は、中国の海外事業子会社を訪問し、CSR部門による現地視察と対応状況のヒアリングを実施しました。

2013年度において、人権に関わる差別、児童労働および強制労働、また腐敗に関する事例の報告はありませんでした。

今後もDOWAグループは、人権の尊重と腐敗防止に向けた取り組みを進めていきます。

## コンプライアンス

DOWAグループにおいて、「遵法」については、企業経営の基本を成すものと位置付け、グループ行動基準に基づき、内部統制の強化や教育を核とした対策に取り組んでいます。

**グループ行動基準** [www.dowa.co.jp/jp/about\\_dowa/cvision.html](http://www.dowa.co.jp/jp/about_dowa/cvision.html)

私たちDOWAグループは、企業が社会の一員であることを認識し、法を守り、社会の良識を尊重した企業活動を行うため、グループ行動基準を定め、「豊かな暮らしの創造と資源循環社会」に向けて自主的に行動していきます。

### 国内事業所の取り組み例

- 社内に企業倫理室を設置
- 毎月遵法会議を開催し、遵守状況の確認
- 職場懇談会等の場で各種規定やガイドラインの周知を実施
- 社内勉強会、社外講習、通信教育の実施
- 通報マニュアルの構築と周知

### 海外事業所の取り組み例

- DOWAグループの方針や基準について、全従業員を対象とする社内教育の実施（中国）
- DOWAグループの行動基準を、中国語に翻訳し事業所内に掲示（中国）
- 従業員が幹部と直接対話、相談できる仕組みの構築（中国・タイ）
- 目安箱の設置（中国）
- Company rule bookの策定（米国）

## 相談窓口

従業員にとってより安心で快適な職場環境を目指し、従業員が職場における悩みな

どを顧問弁護士に直接相談できる「DOWA相談デスク」を設け、社内ポスターなどで周知しています。

また、お取引先や協力会社とのより健全

なパートナーシップを構築するため、社外にもこのDOWA相談デスクの窓口を開放し、お取引先や協力会社の従業員も利用できるようにしています。

## サプライチェーン・マネジメント

DOWAグループでは、ステークホルダーとともに進めるCSR経営の一環として、取引先を含めたCSRサプライチェーン・マネジメントを目指しています。

2013年度は、サプライチェーン全体でCSRを推進するという観点から調達方針の改訂を行いました。

DOWAグループの調達を担う関係部門とCSR部門とで検討を重ね、従来のQCD（品質、価格、納期）に、環境や人権・労働安全などの社会的責任に対する取り組みとして「サステナビリティ」を加えたCSR調達方針を制定しました。

今後は、本方針に基づくガイドラインを制定し、社内浸透およびお取引先への展開を図ります。

## CSR調達方針

私たちDOWAグループは、CSR調達方針について取引先様の理解を促進し、その浸透に努めます。取引先様の選定にあたっては、Q（クオリティ）、C（コスト）、D（デリバリー）に、環境保全や人権への配慮などの社会的責任に対する取り組みS（サステナビリティ：持続可能性）を加え、公正・公平かつ総合的に評価・選定します。

私たちは、取引先様との相互信頼関係の構築に努め、お客様のさまざまなニーズに的確に応える優れた商品づくりのパートナーとして、お互いが繁栄することを目指します。

1

### 法令遵守・公正取引

私たちは、法令遵守はもとより公正・公平を第一とし、取引先様との対等な取引を心がけます。お取引開始の前提として、取引先様には、全ての関連法規ならびに社会規範の遵守をお願いいたします。

2

### 最適な品質と適正価格

私たちは、取引先様との協働のもと、お客様が必要とする品質を確保した商品を適正価格で提供します。取引先様には、品質保証体制の整備と市場競争力のある価格での資材・役務の提供をお願いいたします。

3

### 安定供給体制の構築

私たちは、グループ各社において事業継続計画（BCP）を策定し、災害等緊急時でもお客様に対する商品の安定供給に努めます。取引先様には、確実な納期確保のため、資材・役務の安定供給体制の構築、および不測の災害等発生時のリスクマネジメントをお願いいたします。

4

### サステナビリティ

私たちは、持続可能な社会の実現に貢献するため、3R（Re-duce, Re-use, Re-cycle）をベースに資源循環に努め、環境負荷の少ない資・機材の優先購入（グリーン調達）を推進します。取引先様には、環境保全、人権の尊重、労働安全衛生の確保をお願いいたします。また調達基準として、これらを持続的に改善するためのマネジメントシステムを備えていることを重視します。

5

### 情報の保護

私たちは、取引先様の機密情報を、許可なしに第三者に開示いたしません。取引先様には、当社グループとの取引を通じて得た機密情報、個人情報を厳密に管理して秘密保持に努めるとともに、当社の許可なく社外に公表しないようお願いいたします。

6

### CSR調達ガイドライン

私たちは、DOWAグループCSR調達ガイドラインに基づく調達を推進します。取引先様には、サプライチェーンとしてCSR調達を実践していくために、ご自身の調達先につきまして、本方針をご理解・ご協力いただけるよう、周知をお願いいたします。

# Safety

DOWA グループでは、「安全はすべてに優先する」との基本理念に基づき、国内外の全事業所において安全衛生委員会などの組織を整備、年間計画に基づいてさまざまな安全活動を展開しています。特に一昨年度からは「全社安全運動プロジェクト」を立ち上げ、地区単位での合同取り組み強化など、グループ全体の安全レベルの底上げに注力しています。

## CSR 方針

- 「安全はすべてに優先する」との基本理念に立ち、全従業員が自主的に活動に取り組み安全衛生水準の向上を目指す
- 労働災害を防止し、従業員の健康づくりを支援する

活動の進捗状況 安全分野における活動進捗状況と、2014年度の課題は以下のとおりです。

安全 /Safety 目標	2013年度		2014年度		指標
	施策	評価	主な実績	課題	
リスクマネジメントの充実化	安全運動プロジェクトの全社展開	○	● 全社説明会(キックオフ) ● 地区会議の立ち上げ	地区活動の充実化 個別各社のプロジェクト展開フォロー	休業災害の半減
全社安全教育の強化	海外での取り組み強化	○	● 東南アジア 物流安全活動支援 ● 中国安全大会の活動充実化	来日研修プログラム立ち上げ	1期生 20名受入
	危険体感教育の継続実施	○	● 危険体感教育の支援(306人受講)	危険体感教育の継続実施 海外事業所各社への展開	年間300名 受講

## リスクマネジメントの充実化

安全運動プロジェクトの全社展開のため、2013年度は上期に活動キックオフとなる全社説明会を開催、下期には各地区毎に事務局(幹事会社)を設けて地区内各社の活動状況の共有化や相互助言などを行う「地区会議」を立ち上げました。

2014年度は、この地区会議を主体として地区ごとの活動の充実化を図っていきます。

## 全社安全教育の強化

海外では、東南アジア(タイ・インドネシア)における物流事業の安全活動支援や中国全社が参加する安全大会の活動充実化を推進しました。現地ローカル社員の安全担当者の育成や工場従業員の安全意識向上といった諸課題に対処すべく、2014年度は海外各社のローカル社員を対象とした「来日研修プログラム」をDOWAグ

ループのテクニカル・トレーニングセンター(静岡県磐田市)で新たに立ち上げます。

危険感受性や安全意識を高めるための危険体感教育については、2010年度より毎年継続して実施しているTABMEC(株)の安全体感道場の受講を継続します。また海外各社のローカル社員向けに「来日研修プログラム」の一環として、DOWAメタルのセーフティ・トレーニングセンターを活用した危険体感教育を行う予定です。



## 安全 【重点施策】

## 全社安全運動プロジェクト

DOWAグループでは、2012年9月に「全社安全運動プロジェクト」を立ち上げ、これを安全の重点施策と位置付けています。安全衛生委員会やパトロールなど、国内外問わずすべての事業所で安全活動が展開されていますが、事故災害が多い事業所と少ない事業所の差(ギャップ)について考察した結果、特に安全活動に対する「取り組みの姿勢」「取り組み方」に大きな違いがあることを見出しました。そこで、事故災害が少なく安全活動において成果を上げている事業所の活動内容をベースに、最も実効性の高い安全活動のやり方=「あるべき姿」を定めて、これを全社に展開することで、グループ全体の安全レベルの底上げを図る、という方針を打ち出しました。

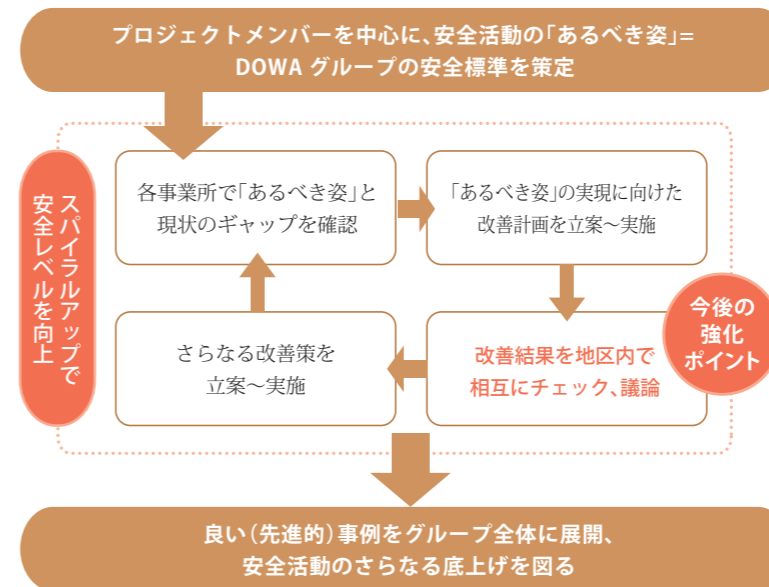
## 安全運動プロジェクト

### 方針

グループ内の良い(先進的)安全活動事例をベースに、標準的な取り組み事項とその中身(仕組み)を決めて、グループ全体で取り組む

### キーワード

- ・「トップダウン(即効性)」と「ボトムアップ(継続性)」の一体化
- ・安全活動の実効性の向上
- ・全員参加の安全活動、活動における役割分担の明確化



このプロジェクトは「誰も怪我をしない」「誰にも怪我をさせない」をスローガンに掲げ、安全担当取締役を責任者とし、全国各地の主要事業所から安全活動の「キーマン」を指名してプロジェクトメンバーとして召集、ヒヤリハットやリスクアセスメント、安全パトロールなどの安全活動の「あるべき姿」(活動要領など)について約1年近く議論を重ねてきました。このように議論を経て構築されたDOWAグループの安全標準=ツール(ヒヤリハット活動、リスクアセスメント、安全パトロール等10項目)を、2013年8月の全社説明会を事実上のキックオフとして、グループ全体へ展開しています。

各社における個別活動をフォローするため、2013年度下期には地区毎の活動組織として「地区会議」を発足させています。この会議体は、全国各地に点在する事業所を所属事業会社に関係なくブロック分けして、それぞれに事務局(幹事会社)を設けて、地区内各社の活動状況の共有化や相互助言などを行う場として機能させることを目的としています。これにより、各社における安全運動の展開・浸透を一層強力に進めてもらい、お互いに指摘し合いながら地区全体の安全レベルの向上を図ります。

2014年度は、この地区会議を主体として、各地区毎の活動(合同パトロール、地区内監査等)の充実化を図っていきます。



# Safety



## 労働安全衛生の取り組み

### 安全活動の推進

DOWA グループでは、全社安全運動プロジェクトを開始する以前より、全国各地の事業所合同の安全クロスパトロールや環境安全コンプライアンス・セミナー、リスクアセスメント発表会などを毎年定期的に開催し、グループ全体として安全活動を推進しています。



リスクアセスメント発表会

### 国内での取り組み

#### 環境安全 コンプライアンス・セミナー

社外講師を招き、安全・環境関連のコンプライアンスの講義、他社環境事故のケーススタディ、環境事故発生時のロールプレイ演習などを通じて、環境・安全意識の向上を図っています。このコンプライアンス・セミナーは2010年度より開始しており、2013年度は4箇所で開催、計81名が受講しました。

実施場所	実施日	参加人員
エコシステム千葉	7月27日	23名
エコシステム山陽	9月10日	13名
小坂製錬	11月28日	30名
セム	1月22日	15名

2013年度セミナー開催実績



環境安全コンプライアンス・セミナー

#### 安全クロスパトロール

国内の北部・関東・中京・西部地域の事業所を対象として、原則として年間各1回ずつ、各地域の事業所メンバー主体で合同の安全クロスパトロールを開催しています。所属事業会社の枠を超えて、第三者の視点で不安全状態や行動を指摘してもらうことで、当該事業所の安全レベルならびにパトロール参加者の危険感度の向上を図っています。2013年度は計61名が参加しました。

実施場所	実施日	参加人員
エコシステム千葉	8月23日	17名
小坂製錬	9月19日	13名
DOWAハイテック	10月29日	17名
サーモテック半田工場	12月17日	14名

2013年度パトロール開催実績



安全クロスパトロール

### 海外での取り組み

DOWA グループでは、日本国内同様に海外各地域・各社においても安全活動を推進しています。特に近年拠点が急速に増えたアジア地域、とりわけタイと中国における安全活動の拠点間交流を重点的に進めています。

#### タイ

東南アジア地域の主要マーケット地として世界中からさまざまな産業が集結しているタイには、DOWA グループも既に4事業会社5拠点を構えています。そこで昨年度より、日本国内同様に全拠点合同の安全取り組みを開始しました。各拠点持ち回りで合同安全パトロールや安全会議などを開催し、特に現地の安全担当社員同士が所属会社の枠を

超えた人的ネットワークの構築を図りました。また昨年度1年間の取り組みの締めくくりとして、タイ国内で「DOWA Safety Award」(安全活動の成果発表会)をバンコク市内のホテルで開催しました。インドネシアや中国からも発表エントリーがあり、参加者による相互採点で上位3チームを表彰し、その成果を褒め称えました。今後も引き続き拠点間交流の活発化に努め、タイ全体の安全レベルの底上げに注力していきます。



タイ DOWA Safety Award

### 中国

DOWA グループ7拠点を擁する中国では、2011年から毎年2~3回の頻度で各社持ち回りの「中国安全会議」を開催しています。全拠点の経営層ならびに安全担当者が参加し、各社における合同クロスパトロール、各社からの直近の事故災害事例の

報告および討議などを行っています。2013年度はCSR部門からも毎回出席し、日本における安全活動の事例紹介や情報・意見交換などを行いました。今後は全拠点参加の安全会議以外でも、共通課題・テーマに特化した拠点間交流や現地社員対象の合同勉強会などを充実させていきます。



中国 安全クロスパトロール

### 労働災害の発生状況

【DOWA グループの事業所における2013年度の事故災害状況について】

厚生労働省災害統計における同規模の事業所での数値と比較すると、度数率は2.89に対して1.30、強度率については0.28に対し0.06となり、いずれも災害統計より低い値を示しています。

※従業員が30~99人(当社の事業所における平均従業員数)の2012年度の災害統計確定値と比較

## 社会からの評価

### 「安全衛生管理優良表彰」 団体賞を受賞

2013年5月、DOWA 岡山事業所(敷地内9事業子会社)が、岡山県労働基準協会岡山支部より『安全衛生管理優良表彰「団体賞」』を受賞しました。受賞の理由は、

2012年度の労働災害が皆無であったこと、昨年富山で開催された全国安全衛生大会で、独自カリキュラムによる職長教育の実施や発煙硫酸出荷作業のリスクアセスメントについて研究発表を行うなど、構成事業場の労働災害防止に寄与していることが評価されました。



### 「労働基準協会会長賞」 個人賞を受賞

2013年10月、「第60回秋田産業安全衛生大会」が開催され、秋田ジंकソリューションズから、製造部・業務グループのある佐藤グループリーダーが「秋田県労働基準

協会会長賞」の個人賞を受賞しました。佐藤グループリーダーは、2002年から安全衛生担当として年間活動計画の立案とその遂行に携わってきました。また、従業員へのリスクアセスメント等の安全教育に熱意を持って取り組み、事故災害の発生防止に努めたことが評価されて、受賞につながりました。

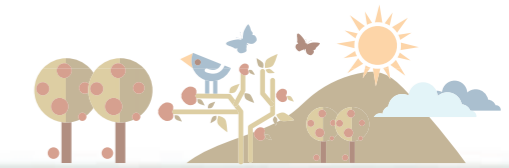


今後もさらに安全衛生活動を推進・改善することにより、無事故・無災害を継続し、社員の安全と健康および企業業績の向上に取り組みます。



# Environment

DOWA グループでは、環境保全を経営における重要な課題と位置付け、取り組みを推進しています。DOWA グループの環境活動は、本業を通じた環境・社会への取り組みと、自社の事業活動における環境負荷を低減させることの両立、つまり環境保全活動と同時に経済的価値の創出を行うことと考えています。



環境  
【重点施策】

## 生物多様性への取り組み

DOWA グループの事業活動は、原料の調達、水やエネルギーの供給など、自然から恵みを受けている一方、廃棄物、排水、化学物質やCO<sub>2</sub>の排出などによって直接的・間接的に影響を与えています。この認識のもと、当社は生物多様性とそれを支える環境保全につながる活動を展開します。

### 生物多様性保全と生態系サービスの持続可能な利用

これまで当社の生物多様性・生態系保全活動は、自社保有森林の管理や植樹などを中心に、自然保護と地域貢献を取り組みの柱としてきました。かつて鉱山活動による

森林破壊を経験した当社にとって、緑化や地域固有植生の復活などの活動は使命であり、真剣に取り組んできました。また地域の方々との重要な交流の場としても、大きな成果を上げてきました。一方で、年々生物多様性保全の重要性は増し、企業もその保全と持続可能な利用にスピードを持って取り組むことが求められて

います。このため、当社の事業活動と生態系との関わりや社会的な動向を社員が理解し、全社で事業活動に反映させていくために、2013年度にDOWAグループの生物多様性基本方針と行動指針を策定しました。

### CSR 方針

- お客様（顧客、地域など）に対し循環型社会の構築に寄与する製品・サービスを提供する
- 事業活動における環境負荷、環境リスクを低減する
- 経営陣から従業員に至るまで、一体となって環境保全活動に取り組む
- 生物多様性に配慮した事業活動を行う

活動の進捗状況 環境分野における活動進捗状況と、2014年度の課題は以下のとおりです。

環境 / Environment 目標	2013年度		2014年度	
	施策	評価	主な実績	課題 指標
温暖化対策	温室効果ガス総排出量の削減	×	●温室効果ガス排出量:CO <sub>2</sub> 換算1,718千トン 国内温室効果ガス排出量 前年比16%増加	温室効果ガス総量削減 自然エネルギー発電量 (太陽光・水力)の増加 総排出量 発電量
	グループ内の温暖化対策の取り組みに関する情報共有	△	●事業所ごとの取り組み状況のアンケートの実施と現状把握	情報の見える化による共有 システム 導入
資源循環の推進	リサイクル技術の開発強化	○	●銀生産量の増加 ●銅電解技術の改善 ●北米・アジアからのリサイクル原料集荷増	マテリアルリサイクルの拡大 リサイクル 量
環境対応製品、新エネルギー分野への展開	LCA品目の選定	×	●LCAは未実施	
		○	●新エネルギー関連製品向け金属セラミック回路基板の増産 ●環境コンサルティング分野で太陽光発電、洋上風力に関する業務の受注増	新エネルギー分野への拡販 売上
生物多様性の保全	生物多様性保全のための方針の策定	◎	●生物多様性調査およびガイドラインの策定	生物多様性保全現状調査の実施 水リスク評価の実施 調査・評価 実施
	森林育成・管理の継続実施	○	●森林育成の推進(秋田県小坂町で広葉樹の苗木約5,400本の植樹、森林管理の推進)	森林育成・管理の継続実施 植樹本数

### 生物多様性基本方針

私たち DOWA グループは、自らの事業活動が生物多様性が生み出す自然の恩恵を受けており、その恵みを持続的に享受するには生物多様性の保全が重要であることを認識し、社会の一員として生物多様性の保全と持続可能な利用に自発的かつ継続的に取り組みます。

### 行動指針

- 1 事業による影響の把握と取り組みの実施**  
私たちは、事業活動がどのような生態系サービスに依存し、どのような影響を与えるかを把握・分析し、影響の回避ならびに低減に努めます。
- 2 従業員の認識**  
私たちは、生物多様性に関する従業員の教育および意識向上に努めます。
- 3 資源循環型の経営**  
私たちは、省資源、省エネルギー、3R等の活動を通じて、資源循環型の社会風土の形成に努め、総合的な取り組みを通じて生物多様性の保全を目指します。
- 4 多様なステークホルダーとの連携**  
私たちは、事業に関係する多様なステークホルダーとのコミュニケーションを通じて情報の共有に努め、生物多様性の持続可能な利用を図ります。

### 温暖化対策

2013年度は、生産工程の省エネルギーを中心とする地球温暖化対策に取り組みましたが、グループ全体の排出量は、前年度の1,490トンに対して、1,718トンに増加しました。国内での排出量増加は、生産・処理量の拡大による燃料使用量の増加によるものですが、電力会社の排出係数の値がアップしたことも排出量の値を押し上げる要因となっています。2014年度は、いっそうの削減に取り組むとともに、自然エネルギーである水力発電、太陽光発電などの自家発電量の増加を目指します。

### 資源循環の推進

小坂製錬では、電子スクラップなどのリサイクル原料にも対応可能なリサイクル炉で、銅や金、銀などの金属を回収しています。2013年度はこの銀の生産量が日本一となりました。また、銅電解工程の改善を図り、操業を安定させました。2014年度は、リサイクル技術の向上に加え、グループ内での資源循環の拡大に取り組みます。

### 環境対応製品、新エネルギー分野への展開

2013年度は、環境対応製品の拡大を目指しLCAに取り組む計画でしたが、適切

な対象品目の絞り込みに至りませんでした。新エネルギー分野への展開については、太陽光パネルの材料となる銀が過去最高の出荷量となり、また環境コンサルティング事業で太陽光発電の導入に係る調査や技術検証に関する業務が拡大するなど、新エネルギーの導入・普及に貢献しました。2014年度は、新・省エネルギーに貢献する技術開発や分野の多様化に向けて取り組みます。

### 生物多様性保全

2013年度は、DOWAグループの生物多様性基本方針と行動指針を策定しました。2014年度は、方針の社内展開と、生物多様性保全計画策定のための調査を進めます。

2014年度は、事業活動と生態系サービスの関わりという視点から、自社の活動のどこに優先的に取り組むべきか、どのように生物多様性を保全すべきか、検討を進めます。

今後も、当社の事業と生態系保全活動についてご理解いただくため、地域の方々のご協力のもと植樹祭や親子森林教室などを継続的に実施していく予定ですが、同時に

サプライチェーンを通じたCSR調達活動や、重要な自然資本である水リスクの把握など、多面的な活動を展開していきたいと考えています。



## DOWAグループのマテリアルバランス

DOWAグループでは、事業のライフサイクルの各段階で必要な資源やエネルギーの投入（INPUT）と、その活動から発生するCO<sub>2</sub>や廃棄物（OUTPUT）の収支を定量的に把握して、マテリアルバランスを考えながら事業活動を進めています。

### 社会の資源循環、自社の資源循環

当社の事業活動は、金属素材や半導体を作る「製品製造事業」と、廃棄物のリサイクルや処理、土壌浄化を中心とした「環境事業」の2つに分けて考えることができます。

環境事業を通じて社会の資源循環に貢献するだけでなく、当社の「製品製造事業」で発生した廃棄物の大半は、「環境事業」でリサイクルを行い原料として活用しています。また、「環境事業」の廃棄物処理で焼却時に発生する熱を無駄なく有効利用し、蒸気や電力として回収して、他のプロセスのエネルギーとして活用しています。このようにグループ内で物質やエネルギーを相互活用するなど、資源循環を意識して事業活動を行っています。

### 2013年度のマテリアルバランス

2013年度より海外事業所3社が加わったことから、前年度に比べて、海外における環境負荷が増加しました。

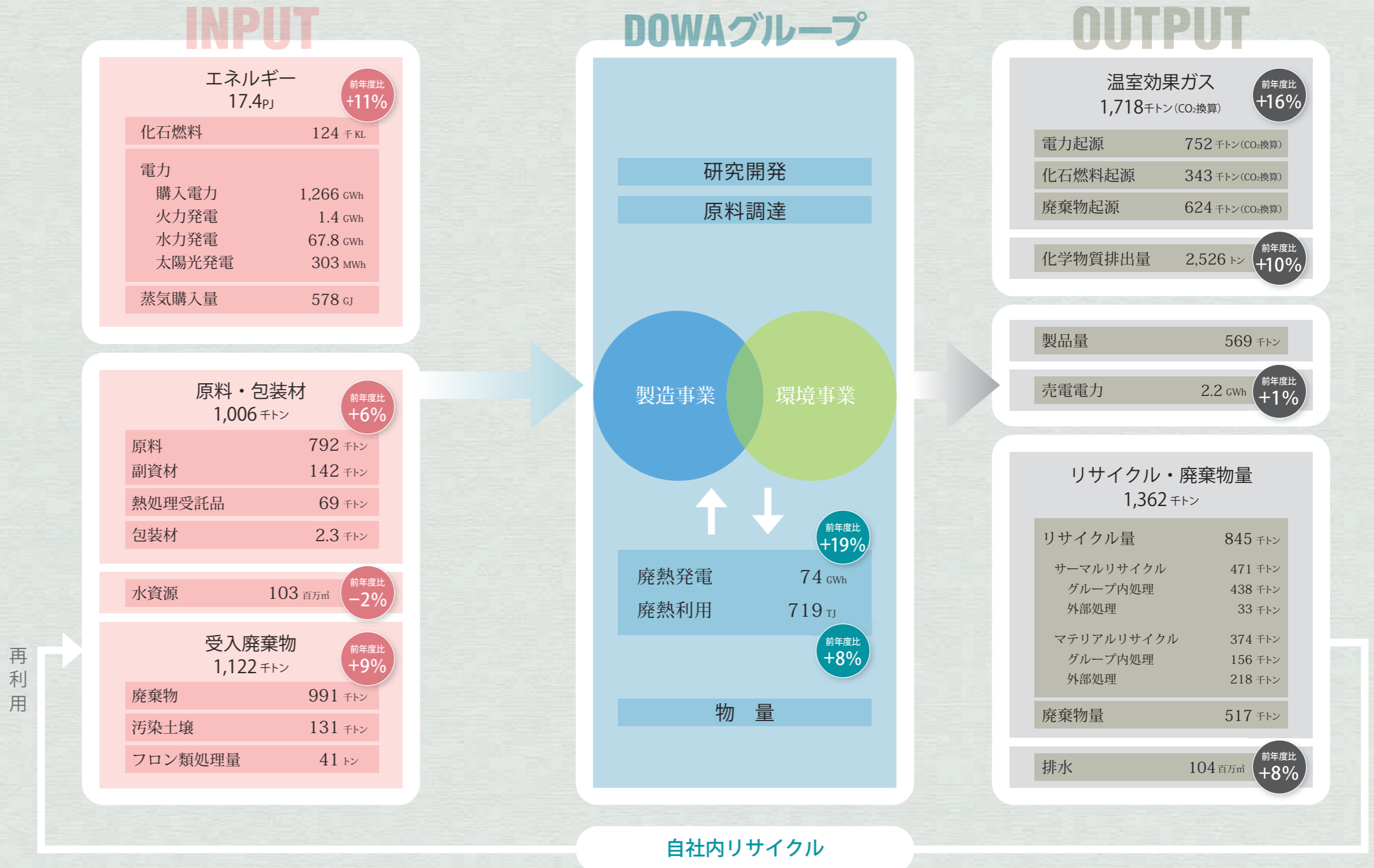
#### ○ INPUT

製造・処理量の増加に伴い、購入電力量と化石燃料消費量が増加し、総エネルギー投入量は前年度比11%増となりました。総物質投入量については、受入廃棄物量は前年度比9%増、原料使用量は前年度比4%増となりました。

#### ○ OUTPUT

温室効果ガス排出量については、エネルギー投入量の増加と、国内の電力排出係数の悪化により、前年度比16%増となりました。リサイクル・廃棄物発生量については、マテリアルリサイクルが前年度比29%の大幅増の一方、廃棄物量は前年度比で5%削減することができました。

個別項目の詳細については、次ページ以降をご覧ください。





## 地球温暖化対策への取り組み

DOWA グループでは、日本経団連および日本鉱業協会の低炭素社会実行計画（2013年1月公表）に基づき、「2020年度におけるCO<sub>2</sub>排出原単位を1990年度比で15%削減する」という目標を掲げ取り組んでいます。

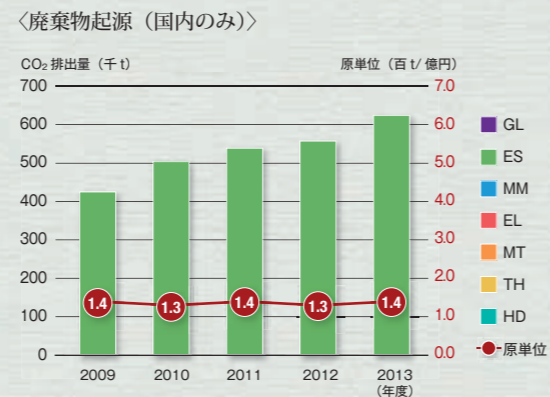
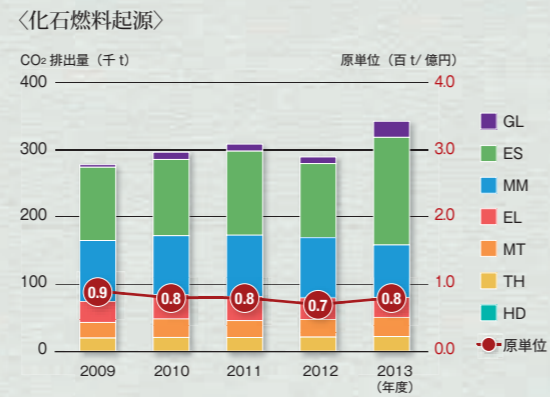
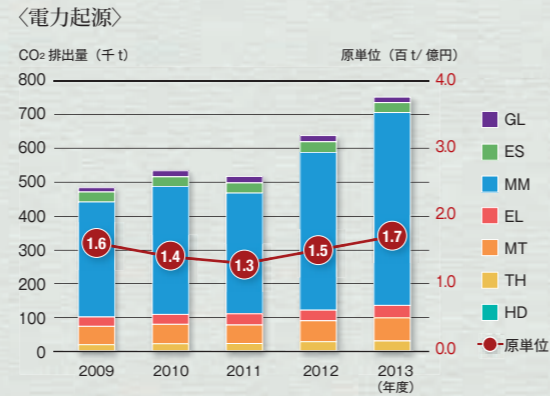
### ○温室効果ガス排出量の推移

2013年度のDOWAグループ全体での温室効果ガス排出量は、約1,718千t-CO<sub>2</sub>（国内1,677千t-CO<sub>2</sub>、海外40千t-CO<sub>2</sub>）で、国内における排出量は前年度に比べて約16%増加しています。海外は2013年度より3工場が加わったこともあり、主に化石燃料起源のCO<sub>2</sub>が増加しています。国内は、秋田製錬の亜鉛増産による電気使用量の増加、エコシステム山陽の廃棄物処理量増に伴う化石燃料消費量の増加が主な要因です。

今後も、エネルギーの効率的な利用に向け、対策を進めるとともに日常的なCO<sub>2</sub>排出量削減活動に取り組んでいます。

DOWAグループのCO<sub>2</sub>排出量は、外部から受け入れる廃棄物の焼却処理に起因する二酸化炭素の排出が大きいことが特徴です。受入廃棄物排出については、取扱量のコントロールによる削減が困難であることから、廃棄物焼却熱を使った発電や蒸気利用などのサーマルリサイクルを進め、有効利用を図っています。

また、オゾン層の破壊をもたらすフロン類や温暖化の原因となるHFC、PFCなどの代替フロン類についても、廃棄物の焼却熱を利用して破壊処理を行っています。



## 2013年度のCO<sub>2</sub>削減の取り組み

設備面では燃料転換やLED照明の導入、取り組み面では設備の計画停止や空調温度適性化、輸送面では二酸化炭素の排出が少ない鉄道や船舶へのモーダルシフト、集荷・集配における輸送の効率化などを推進しました。

- 設備燃料を重油から天然ガスに切り替え CO<sub>2</sub>削減量 116t/年
- コンプレッサーの入れ替えによる台数削減 CO<sub>2</sub>削減量 7,600t/年
- 廃熱回収による省エネルギー 燃料削減量 37.9kl/年
- 散水による空冷チャラー冷却効率向上 CO<sub>2</sub>削減量 8.6t/年



※CO<sub>2</sub>排出量については、原則として、系統電力購入量、化石燃料消費量、および受入廃棄物量に対して地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）における排出係数を乗じて求めています。受入廃棄物由来のCO<sub>2</sub>排出量に関しては、この報告書の作成に当たり算定条件を設定しているため、行政への報告値と必ずしも一致しない場合があります。また、日本と海外の廃棄物の分類が異なること、海外事業所の受入廃棄物に対し適切な排出係数を設定するのが困難であることにより、廃棄物起源のCO<sub>2</sub>排出量については国内事業所分のみ表示しています。

## 新エネルギー等の活用

DOWAグループでは、温暖化対策として省エネルギーや燃料転換などに取り組んでいます。さらに環境負荷の少ない新エネルギーの

活用を積極的に進めています。新エネルギーは自然の力や今まで捨てていたエネルギーを有効に使うことで生み出され、化石燃料の削減と同時にCO<sub>2</sub>の排出量を減らすことができます。

### ■ 廃棄物発電

排熱を有効利用する廃棄物発電は、ごみを焼却する際の「熱」で高温高圧の蒸気を作り、その蒸気でタービンを回して発電します。廃棄物発電は石油などの化石燃料の消費を節約し、CO<sub>2</sub>の削減にもつながる優れたシステムです。DOWAグループでは、国内4か所、海外1か所の5事業所で発電を行っており、2013年度に利用した廃熱発電量は、前年度に比べ約20%増の74.3GWhでした。



### ■ 水力発電

水の流れを利用して電力を生み出す水力発電は、環境負荷の少ない純国産エネルギーです。金や銀、銅などの金属製錬を行う小坂製錬では、1897年より発電を開始し、現在秋田県内に6か所の水力発電所を保有しています。2013年度の発電量は前年度に比べ約13%増の67.8GWhとなり、製錬事業のエネルギーを賄う重要な電力源となっています。



### ■ 太陽光発電

DOWAグループでは、国内の4事業所が太陽光発電システムを導入しています。2013年度は4社合計で約300MWhの発電を行いました。太陽光発電は、天気によって発電量が左右されますが、発電量を目に見える形で示すことができるなど、従業員の省エネ意識の向上や工場見学者に対する地球温暖化・エネルギー問題などの環境啓発に役立っています。



### ■ バイオディーゼル

バイオディーゼル岡山では、岡山市と共同で一般家庭、コンビニエンスストア、飲食店、食品製造工場などから排出される廃食用油を回収しBDF（バイオディーゼル燃料）を製造しています。製造したBDFは、岡山市のごみ収集車、バス、DOWA事業所内のトラックやフォークリフトなどに使用される軽油の代替燃料として利用しており、CO<sub>2</sub>の削減に貢献しています。バイオディーゼル岡山のBDFは、その品質について全国バイオディーゼル燃料推進協議会の品質確認制度において、国内トップレベルの品質であると認定を受けています。



## 社会からの評価

バイオディーゼルの取り組みが「環境おかやま大賞」を受賞

2013年10月、バイオディーゼル岡山が、「環境おかやま大賞」の「循環型社会形成推進部門」で岡山県から表彰されました。廃油のバイオディーゼル燃料の取り組みが循環型社会の形成に大きく貢献すること、また、環境教育を通してリサイクルの仕組みや重要性について積極的に啓発活動を行ってきたことが、成果として認められました。



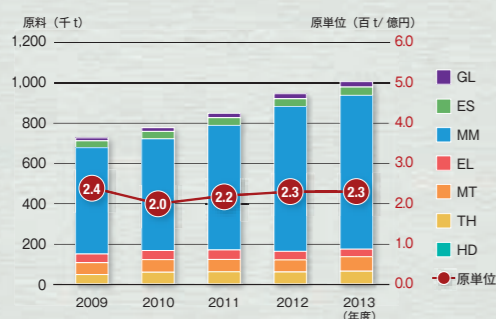


## 資源循環の推進

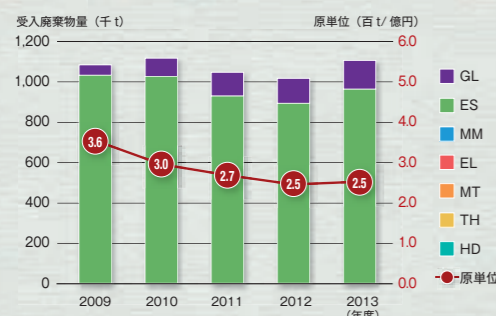
DOWA グループでは、天然資源の消費を抑制するとともに、使用済み資源の循環的利用を進めることにより、持続可能な社会形成への貢献を図っています。

### ○ INPUT

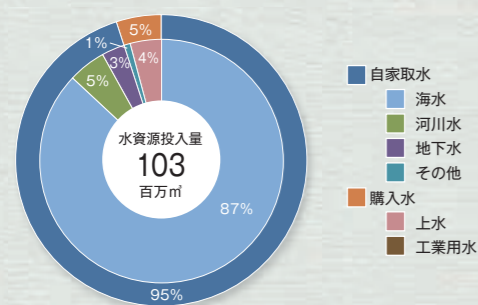
〈原材料〉 2013 年度の原料の使用量は 1,006 千トンで、前年度に比べ 6% 増加しました。



〈受入廃棄物〉 2013 年度の受入廃棄物量は 1,122 千トンで、前年度に比べ 9% 増加しました。これはエコシステム千葉とエコシステム花岡の受入量が増えたことによるものです。



〈水資源〉 2013 年度の水資源投入量は 103 百万 m<sup>3</sup> で、前年度に比べ 2% 減少しました。水の用途では、全体の約 87% を占める冷却水が最も多く、これは海水を使用しています。淡水の利用は水資源投入量全体の約 13% で、生産用のほか、上水にも利用しています。



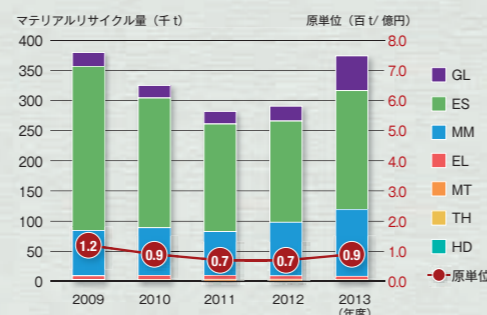
### 2013 年度の省資源・リサイクルの取り組み

- 運転管理の徹底 コークス使用量 7% 削減
- 社内精製鉄原料の使用拡大 原料使用量 約 16% 削減
- めっき厚バラツキ低減 スズ原料 約 2% 削減
- 面削屑・形削屑のリサイクル リサイクル原料 1,837kg 増加

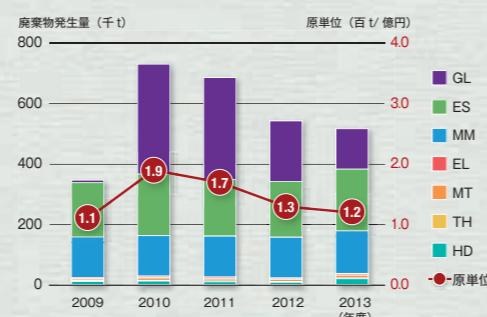
### ○ OUTPUT

〈製品〉 2013 年度の製品量は 569 千トンで、前年度に比べ 4% 増加しました。これは垂鉛および垂鉛加工品の出荷量が増加したことによるものです。

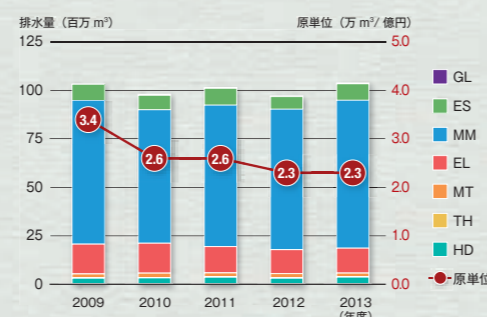
〈マテリアルリサイクル〉 2013 年度のマテリアルリサイクル量は 374 千トンで、前年度に比べ 29% と大幅に増加しました。このうち DOWA グループ内でのリサイクルが 156 千トン、社外でのリサイクルが 218 千トンでした。これは主に、土壌リサイクルと海外での廃油リサイクルが増加したことによるものです。



〈廃棄物〉 2013 年度の廃棄物処理量は 517 千トンで、前年度に比べ 5% 減少しました。



〈排水〉 2013 年度の総排水量は 104 千トンで、前年度に比べ 7% 増加しました。これは、降雨量の増加に伴う雨水排水と、垂鉛の生産量増加に伴い冷却水として使用した海水量の増加によるものです。

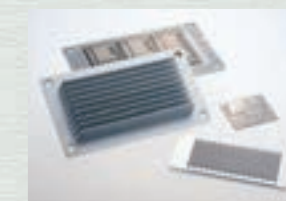


## 環境対応製品、新エネルギー分野への展開

エネルギー資源が少ない日本で太陽光や風力、バイオマスなどの再生可能エネルギーの利用拡大を目的として、2012 年、再生可能エネルギー固定価格買取制度 (FIT/Feed in Tariff) がスタートしました。本制度を背景に、太陽光発電や風力発電は着実に導入が進んでいます。DOWA グループは、新エネルギー分野のさまざまな機器向けに製品や技術を提供することで、再生可能エネルギーの普及に取り組んでいます。

### ○ DOWA の金属セラミック回路基板

当社の金属セラミック回路基板は、電力を効率よく制御するための半導体デバイスに用いられる絶縁基板です。当社製品は高い絶縁性と放熱性・信頼性を兼ね備えており、産業機械などに使用される高耐圧パワーモジュールなどに幅広く使用されています。風力発電や太陽光発電で使用されるパワーモジュールにはより高い特性が要求されるため、アルミベース一体型基板など、耐熱性と信頼性がさらに優れた製品の量産化を進め、拡大する需要に対応していきます。



### 環境・エネルギー分野に貢献する DOWA のエコプロダクツ

DOWA グループは、供給先のお客様の製品に使用されることで省エネルギー、省資源、有害物質フリーなどを実現するよう、サプライチェーン全体での環境負荷低減に貢献する素材開発や技術の向上に取り組んでいます。

#### 〈窒化物系 HEMT 構造エビ基板〉

パワー半導体デバイスの材料

用途 | 家電製品の電源、サーバー、ハイブリッドカー

環境性能 | 省エネルギー/シリコン系より電気抵抗が低く、電力損失を 3 分の 1 に制御



#### 〈深紫外 LED〉

深紫外線 (350nm 以下) を出力できる LED

用途 | 樹脂硬化、接着、乾燥、治療、各種分析、光触媒、水浄化など

環境性能 | 省エネルギー、高効率、長寿命、有害物質の削減 (水銀フリー) / 水や物質表面の殺菌・消毒を効率的に行える波長 (300nm 以下) を実現

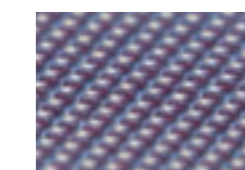


#### 〈MR (貼り合わせ) LED〉

高機能化したエピタキシャル薄膜を成長した基板に、金属反射部を備えた基板を接合する技術を導入した高出力赤外 LED チップ

用途 | スマートフォンの近接センサー

環境性能 | 省エネルギー/高出力による低消費電力化



## 社会からの評価

### 窒化物 HEMT エビ基板「井上春成賞」を受賞!

2013 年 7 月、DOWA エレクトロニクス半導体事業部の「窒化物 HEMT エビ基板」が(独) 科学技術振興機構の井上春成賞\*を受賞しました。窒化物 HEMT エビ基板は名古屋工業大学の江川教授との共同研究の成果をもとに、半導体材料研究所でパワー半導体デバイス用材料として開発、DOWA セミコンダクター秋田で製品化したもので、今回の受賞はこの実績が評価されたものです。

この窒化物 HEMT エビ基板を用いたパワー半導体デバイスは、エコ家電やエコカーなどの中核部品として電力損失の削減を可能にするもので、省エネルギーに貢献します。



\*井上春成賞：大学等の研究機関の成果・技術をもとに企業で製品開発・事業化した科学技術を表彰する賞で、表彰は年間 2 件。

# Society

DOWA グループでは、CSR 活動を通じて、社会とのより良い共存関係を強化し、すべてのステークホルダーから信頼される企業になることを目指しています。事業所だけでなく、従業員一人ひとりが企業市民としての自覚を持ち、地域社会における活動を推進することを CSR の重点分野の一つと考え取り組んでいます。



社会  
【重点施策】

## 海外における社会貢献

DOWA グループの海外進出は、1950 年代からの 20 カ国以上での鉱山開発に始まり、市場やユーザーの環境変化に対応して積極的に展開してきました。特に 2000 年以降は、中国や東南アジアなど、高い経済成長が続くアジアの国々を中心に事業拡大に取り組んでいます。事業所が立地する国や地域の持続的な発展は、DOWA グループにとっても存続と成長の基盤となります。このため、それぞれの国や地域が抱える社会的課題に目を向け、地域社会と協力しながらその解決に努めます。

## CSR 方針 | 地域特性に応じた社会貢献を地元と一体となって推進する

活動の進捗状況 社会分野における活動進捗状況と、2014 年度の課題は以下のとおりです。

社会 / Society 目標	2013年度			2014年度	
	施策	評価	主な実績	課題	指標
ダイバーシティの推進	高齢者活用の推進	○	●グループで再雇用制度を改定し、定年年齢に到達した社員がやる気を持って働く環境を整備	定年後のライフプランに関する情報提供施策実施(セミナー開催)	再雇用人数
	障がい者雇用の推進	△	●法定雇用率達成に向けた取り組み実施	障がい者雇用推進計画の実行	計画進捗率
ワーク・ライフ・バランス推進	次世代育成支援行動計画の策定	○	●次世代育成支援行動計画策定、公示 ・子育て支援制度の認知度向上 ・労働時間短縮に関する労使の取り組み加速 と新システム導入による労働時間管理の徹底	次世代育成支援行動計画の実施促進	計画進捗率
		○	●新入社員を対象としたアンケートの実施 ●計画年休など有休取得率向上のための取り組みの実施	年次休暇取得率の向上	取得率
地域貢献	地域状況に応じた社会貢献活動の拡充	○	●海外事業所の地域貢献情報の収集 ●地域イベントの主催・運営(マラソン大会、クロスカントリースキー大会、さくらまつりなど)	海外事業所ヒヤリング、地域貢献の取り組みサポート 地域イベントの継続発展	海外調査・訪問件数
CSR の社内浸透	社内向けCSRポータルサイトの充実化	○	●メールニュースの発行 ●CSR重点施策に関する解説(CSR調達や労働安全など)の掲載	CSR教育の拡大 ポータルサイトの拡充、グループ報の活用	更新頻度

### ダイバーシティの推進

高齢者活用については、従来の再雇用制度を見直し、一律格付から等級制としたことで、高齢者の能力に対してより適正に処遇できる制度としました。今後、高齢者の方々に一層能力を発揮してもらえるよう、制度を拡充していきます。

障がい者雇用では、DOWA グループ全体の障がい者雇用は増加となりましたが、法定の雇用率を達成することはできませんでした。足元の課題を見直し、より効果的な施策を検討していきます。

### ワーク・ライフ・バランス推進

2013 年度は、新たな次世代育成支援行動計画を策定しました。上記のとおり、現在

導入している支援制度の認知度向上や、労働時間管理のさらなる徹底を計画として盛り込んでおります。また、新入社員を対象として、ボランティア休暇やフレックスタイム制など取得したい制度や、取得のしやすさなどについて調査を行っております。今後も、従業員の意見を参考にしながら、仕事と生活の調和を図るべく制度導入や取り組みを促進します。

### 地域貢献

地域の方々のご協力のもと、2013 年度も岡山県でのマラソン大会やさくらまつり、秋田県でのジュニアクロスカントリー大会などのイベントを開催し、多くの参加をいただきました。また、海外事業所について、アンケートを通じ社会貢献実施状況の取りまと

めを行いました。2014 年度は CSR 部門による海外事業所のヒヤリングを行い、国や地域の文化、実情に合わせた社会貢献のサポートを進めます。

### CSR の社内浸透

2013 年度は、社内向け CSR ポータルサイトを通じて、各種方針や法制度、自社の取り組み状況などの情報発信に努めました。2014 年度は、グローバル・コンパクトや ISO26000 などの国際的な規範や、サプライチェーンにおける CSR 課題などをテーマとした CSR 教育を展開します。情報提供に加え、双方向性のある教育機会を拡大することで、社員一人ひとりの CSR の考え方や取り組みに関する認識をさらに高めることを目的としています。

## タイ / 廃棄物処理・リサイクル工場の地域貢献

Eastern Seaboard Environmental Complex (ESBEC) は、地域社会との信頼関係のもと、廃棄物処理事業と廃油類の再資源化や有価物の分別などのリサイクル事業を行っています。保有する最終処分場は米国 EPA (環境省) の基準を満たしており、排水処理、メタン回収、臭気防止などを確実に実施し、周辺環境に配慮した施設として安全かつ安定した運営を行っています。



### 2013 年度の主な地域貢献活動

ESBEC は、企業市民としてコミュニティに参画し、また、対話を通じてコミュニティの発展のために貢献することが重要な社会的責任であると考えています。地域のステークホルダーとのさまざまな関わりの中で、次世代を担う子供たちへの支援、さらに本業に通じる環境衛生に関わる分野を重視し、積極的な活動を進めています。



**教育基金**  
地元の 3 つの学校に十分な教員を配置するための教育基金へ財政支援を実施



**環境教育**  
工場見学を通じた環境教育とエコバッグ製作のイベントを開催



**コミュニティとの対話**  
地域とのコミュニケーションと理解を深めるため、多くの住民グループとの対話および工場見学会を実施



**奨学金**  
貧しい環境の子供たちが学校教育を受けることを支援するため、地元の 6 つの小中学校に奨学金を提供



**リサイクル**  
学校内のリサイクルを推進するため、分別用ゴミ箱を寄付



**衛生活動**  
学校の衛生環境向上のため、ボランティアで施設の消毒と清掃作業を実施



## 社会との関わり

DOWA グループでは、各事業所・部門において、お客様、株主・投資家、お取引先、地域社会、社員などの主たるステークホルダーとさまざまな手段でコミュニケーションを実施しています。

### お客様とともに

DOWA グループは、製品・サービスを通じてより良い社会の実現に貢献していくとともに、お客様との良好な関係づくりに努めています。高品質な製品・サービスの提供を通してお客様の満足度向上に努めます。

## 品質管理

DOWA グループでは、モノづくりをする上で「品質」を重要な経営基軸として位置付けています。主要製造工場は品質マネジメントシステムの国際規格 ISO9001 の認証を取得しています。この品質マネジメントシステムを PDCA に基づき継続的に運用することで、製品およびサービスの品質の向上に努めています。

### ○テクノセンター

DOWA グループの提供する製品は、製錬、粉体、めっき、半導体、熱処理、リサイクルなど幅広い領域にわたっています。それぞれの分野でトップクラスの品質を維持するためには、ハイレベルの評価技術を駆使して、不具合対応、品質改善、新製品開発を進めていく必要があります。そのため自社内に分析を行うテクノセンターを有し、高度な分析・評価設備と人材を揃えて、化学分析、表面分析、物性評価等に取り組んでいます。

### ○お問い合わせ・ご意見への対応

お客様からいただいたご意見やお問い合わせに対しては、迅速に適切な改善を図ることで、ご満足いただける製品の供給に努めています。情報共有・管理システムの整備を図り、事業所ごとに集められた情報を

分類・分析し、評価の実施し、商品・サービスの改良・改善や開発につなげています。

## 技術

DOWA グループのお客様は、主に最終

製品を組み立てるセットメーカー、あるいはその組み立てに必要な部品・部材などを製造するメーカーです。当社は、お客様の先にある製品の市場や消費者のニーズを見据え、お客様が必要とする技術を先んじてご提供したいと考えています。

### 【DOWA グループの技術分野と要素技術】

経営方針に「技術立社」掲げる DOWA グループは、企業競争力のベースを技術に求めており、研究開発は最も重要な企業差別化戦略の一つと考えています。



## 社会からの評価

### 日本金属学会「技術開発賞」を受賞

2013 年 9 月、DOWA メタルテックの技術センターによる『析出強化型銅合金の集合組織制御技術の開発』が日本金属学会「技術開発賞」を受賞しました。日本金属学会は、材料に関する学会としては日本最大規模の学会で、本賞は毎年同学会に応募

された新技術・新製品に関する投稿報文から、優秀な技術を審査し表彰されるものです。「集合組織制御技術」は、電子部品等に使用されるコネクタ向け銅合金に求められる、強度と加工性といったトレードオフの関係にある特性を改善する重要な技術です。



### 株主・投資家とともに

DOWA グループでは、株主・投資家等のステークホルダーの方々に対する企業・経営情報の説明をコーポレート・ガバナンス上の重要課題の一つと認識しており、適時・適切な情報開示に努めています。

四半期毎の決算発表においては、経営層による決算説明会の開催を行っています。また国内外の投資家へ経営情報を直接説明する機会も設けています。また DOWA グループの経営方針・経営状況を報告するツールとして、和文・英文・中文アニュアルレポートや報告書を発行し、適切で透明性の高い情報開示に努めています。

### ○株主総会

毎年 6 月、定時株主総会をホテル椿山荘東京で開催しており、2013 年は約 500 名の株主の方々にご出席いただきました。株主総会終了後は、株主の方々とのコミュニケーションを促進することを目的として懇談会を開催し、役員との対話の場や、製品展示コーナーを設けています。



### ○DOWA ホールディングス Web サイト (IR 情報)

<http://www.dowa.co.jp/jp/ir/>

株主・投資家の方々に DOWA グループをより知っていただくための情報を、わかりやすく掲載しています。



### 東日本大震災への継続支援

DOWA グループでは、東日本大震災への復興支援として、2011 年 5 月より仙台市に震災支援復興チームを立ち上げ、本業を通じ災害廃棄物処理の支援や除染事業などに協力してきました。2013 年度も各事業所でさまざまな支援活動を継続しています。その取り組みの一例をご紹介します。

### ○オリジナルエコバッグで「移動図書館プロジェクト」を支援

DOWA ホールディングスでは、被災地で移動図書館プロジェクトを展開する「(社) シャンティ国際ボランティア会」の活動を支援しています。プロジェクトでは、津波で大きな被害を受けた岩手県沿岸部をはじめ、宮城県、福島県の仮設住宅を図書館カーで巡回し、書籍の貸し出しやコミュニケーションの場を提供しています。DOWA グループでは、毎年株主総会で CSR 報告書をオリジナルのエコバッグに入れて株主の方々へ配布していますが、このエコバッグを書籍の貸し出し用に提供し、また活動の支援として、バッグ製作費用の一部を寄付しました。



### ○社内バザーで「東日本大震災みやぎ子ども育英募金」を支援

イー・アンド・イー ソリューションズでは、2011 年以降、東日本大震災復興へ継続的な支援活動を続けていますが、その内容や支援先については社員で話し合って決定しています。2013 年度は、社員が不要になった本を持ち寄り、社内でブックバザーを開催しました。1 か月で 500 冊以上の書籍が集まり、2 日間のバザーには多くの社員が参加しました。収益金に、会社のマッチング・ギフトである 10 万円を合わせ、東日本大震災による宮城県の震災孤児支援「東日本大震災みやぎ子ども育英募金」に寄付を行いました。





## 地域社会とともに

DOWA グループは、社会分野の取り組みの中で地域貢献を重点施策として取り組んでいます。国内外の各拠点では、地域とともに歩み発展していくために、地域懇談会などのコミュニケーションや植樹祭、スポーツイベントなどの主催、工場見学やインターンの受け入れなどの、地域に根ざした CSR 活動を積極的に展開しています。

### ○ 2013 年度の取り組みの一例

#### 地域イベントの開催

- 7月 第7回小坂ふるさとの森づくり植樹祭と秋田ノーザンハピネッツバスケットボールクリニック（秋田県）
- 11月 第3回児島湾花回廊いきいき健康マラソン（岡山県）
- 2月 第24回 DOWA 杯ジュニアクロスカントリースキー十和田湖大会（秋田県）
- 3月 第5回児島湾花回廊さくらまつり（岡山県）

このほか、清掃や緑化などの環境美化活動、交通安全キャンペーンへの協力、地元の祭りやスポーツイベントなどへの従業員によるボランティアなど、それぞれの拠点を置く地域で幅広い活動を実施しています。



### ○ 企業訪問学習

#### 修学旅行生による訪問学習

2013年5月、秋田県小坂町より、小坂中学校の3年生39名が修学旅行の一環で DOWA グループの東京本社を訪れました。学校教育目標に「心豊かで たくましく 友と語り 夢をはぐくむ」を掲げる小坂中学校は、OB が在籍する会社を修学旅行で訪問し、会社見学とともに事前に与えられていた課題を発表するという取り組みを行っており、2013年度は地元ゆかりのある企業として当社が選ばれました。

会社説明と見学の後、「10年後の小坂町をどうしたいか」というテーマでグループ発表が行われました。工夫が凝らされたプレゼンテーションには、自分たちの暮らす街をより良いものにしたいという思いとアイデアがたくさん込められていました。創業の地である小坂町と当社の縁は深く、主力工場である小坂製錬をはじめ、環境・リサイクル事業の集積地です。次世代を担う中学生のみなさんが町の将来についてしっかりした考えを持っていることに、当社も学ぶことが多く大きな刺激となりました。

発表後、生徒たち全員によるオリジナルダンス「ONE」がプレゼントされました。小坂中学 OB である元オフコース大間ジローさんの曲に、HIP HOP の先生が振り付けた本格的なダンスで、みなさんののびのびと披露されました。

今後も DOWA グループでは、企業理解を深めていただくこと、学校教育の一助となるため、このような企業訪問学習の受け入れを継続していきたいと考えています。



## 社会からの評価

### 児島湖花回廊サポーターズクラブが「地域環境美化功労」で表彰

2013年11月、岡山県備前県民局より児島湖花回廊サポーターズクラブが、「地域環境美化功労」の表彰を受けました。これまで地域の方々と一緒に取り組んできた河津桜の植樹（植樹本数：4,703本）やヒガンバナの植栽（植栽球根数：12万球）などの活動が、岡山市の児島湖周辺地域の環境整備に貢献したと認められたものです。今後も植樹や植栽に加え、花回廊マラソンなどの各種イベントを通じて、地域の環境美化と活性化のために活動を続けていきます。



## 従業員とともに

DOWA グループは、行動規範において、人材を企業活動のすべての基本とし、学歴差、年功差、男女差などに関わらず 仕事を進める能力で評価することを定めています。その人材が最大限に力を発揮できるよう、以下の目標を掲げ、さまざまな取り組みを行っております。

- ・組織機能の原点に戻り、勝てるチームをつくる
- ・社員自らの手で、働きたい会社を主体的に創り出す



## 雇用の状況

DOWA グループでは、事業計画に合わせた適正な人員配置を推進しており、事業展開に必要な能力を有する多様な人材の雇用に努めています。

2013年度末（2014年3月31日）時点の国内従業員数は5,411名で、昨年より約100名の増加となりました。なお、国内雇用社員のうち男性は4,398名（88%）、女性は608名（12%）です。

また、海外では、グローバル展開に伴い主にアジアで働く現地雇用従業員が増加しています。タイ、中国を中心に昨年より約100名の増加となりました。

### 〈国内の雇用状況〉

属性	年度	2011年度		2012年度		2013年度	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性
国内正規社員	役員	123	1	124	0	121	0
	管理社員	681	8	707	8	715	9
	一般社員	2,699	288	2,727	294	2,703	296
国内非正規社員	派遣社員	432		318		405	
	パート・嘱託・期間雇用	826	265	846	291	859	405
総計		5,323		5,315		5,411	

### 〈地域別従業員数〉

地域	年度	2011年度	2012年度	2013年度
日本		5,323	5,315	5,411
アジア(日本以外)		1,325	2,520	2,622
欧州		4	4	10
北米		78	92	80
中南米		3	1	1
総計		6,733	7,932	8,124

## 公正な評価・処遇

行動規範にある「仕事を進める能力で評価する」理念から、DOWA グループでは、以下の方針のもと、公正な評価・処遇が行われ、育成に活用される状態を目指して取り組んでいます。

- 考課者・被考課者が、会社制度の仕組みや基準の理解を深め、適切な考課や育成に活用する取り組みを継続する。
- 組織目標を共有し、自らの等級に求められる能力や行動を把握しながら、業務遂行能力の向上を図る。

今年度は新任マネージャーに対する考課者訓練を実施しており、今後は継続的に訓練の機会を設けることで、グループ全体で適切な評価・処遇・育成が促進されるよう取り組む予定です。



## 人材の育成と活用

DOWA グループでは、「グローバルに活躍するプロ人材を育てる」「育成する文化を

定着させる」ことを目的とし、各職場で継続的に教育を実施する取り組み、若手社員の On The Job Training (OJT) の強化策の推進、実践的な教育機会の拡充、異なる職務

の経験（計画的異動）、自発的な人事異動の仕組みなどを通じた人材育成・活用施策を展開しています。

### ■ 2013 年度の主な実績 【教育】

#### ○階層別教育

- ・次期経営幹部（継続） ビジネスリーダー養成研修（16名/4月～12月）
- ・管理職（継続） 新任マネージャー研修（約30名）、コーチング研修（約30名/7月～11月）
- ・中堅社員（継続） 新任5級プロアクティブ（リーダーシップ）研修（約50名/10月～12月）
- ・中堅技術社員（新規） 思考力強化研修（7名/10月～8月）
- ・入社3年目まで（継続） 新入社員研修（4月～5月中旬）、フォローアップ I～IV 研修、OJT 制度の充実（約130名）
- ・グローバル（継続） 英語プレゼンテーション（約40名）、赴任前研修（約10名）
- ・女性のキャリア（継続） ベーシックキャリア研修（21名）

#### ○大学との若手技術者交流会

2013年7月、DOWA エレクトロニクスの機能材料研究所にて、東北大学との若手技術者交流会を実施しました。この交流会は、DOWA の若手技術者が社外の研究者と議論することで、別の視点や新たな知識を得ることを目的として、毎年開催しています。今回の交流会には岡山地区の技術者約20名が参加し、研究発表をもとに議論を行いました。

### 【人材活用】

#### ○キャリアマッチング制度

人材を募集している部門と対象者が合意すれば、上司・自部門を経由することなく、募集部門へ直接異動することができる制度です。2013年度は1名がこの制度を利用して希望部署へ異動しました。

## ダイバーシティの推進

グローバル展開や事業領域の拡大に伴い、従業員はますます多様な価値観や強みを活かしていくことが求められています。DOWA グループでは、多様な個性を持つ従業員が、それぞれの力を十分に発揮することが、企業の成長につながると考えており、以下のような取り組みを実施しています。

#### ○採用時の配慮

DOWA グループは国籍によらずグローバルに働くという考えのもと、採用段階からの仕組みづくりを進めています。

#### ○ベテラン従業員の積極活用

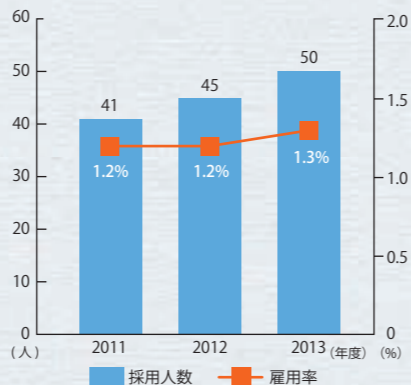
定年後も引き続き DOWA グループでの勤

務を希望する従業員に対して再雇用を実施しています。これまで、新たに等級制を設けるなど制度の改定を行い、これまで培ってきた能力を、継続して発揮することができるよう環境整備しました。2014年度は、定年後のライフプランに関する情報提供を目的としたセミナーを開催するなど、制度の拡充を行う予定です。

#### ○障がい者雇用

2013年度は、DOWA グループ全体で雇用数・雇用率とも増加し、法定雇用率を達成したグループ会社もありましたが、全体では未達となりました。課題として、当社の製造現場では、障がいを持つ方にとって必ずしも働きやすい環境が実現できるとはいえません。したがって、全事業所で一律の

増加を目指すのではなく、雇用事業所の中でより質の高い職場環境づくりを進めることや、職場体験の推進などを通じて、グループ全体での雇用の増加に取り組みます。



## 健康管理の推進

DOWA グループでは、全社員が心身ともに健康で生き活きと活動することが大切であり、「健康づくり」は「人づくり」の基礎であると考えています。

#### ○健康診断

DOWA グループでは、従業員の定期健康診断受診はもとより、女性社員にはさらに婦人科検診費用の補助を実施しています。また従業員の扶養者に対する特定健康診断の受診率向上にも取り組んでいます。2013年度は、特定健康診断受診者に対し、インフルエンザ予防接種の優遇措置を実施いたしました。

#### ○メンタルヘルスの取り組み

心の健康をケアするため、メンタルヘルス・カウンセリング制度の運用や、管理職へのメンタルヘルスに関する教育を行っています。さらに現在は、メンタルヘルス・セルフチェックによる自発的なケアの促進も検討しています。

### 従業員の家族とともに

DOWA グループにとって、社員だけでなくその家族も大切なステークホルダーです。DOWA の CSR を社内に浸透させ社員一人ひとりの活動として広げていくのと同時に、家族の方々にも DOWA への理解を深めていただくため、見学会や工場イベントなどの機会を通じて取り組んでいます。

#### ○夏休み親子エコイベントを通じたコミュニケーション

2013年8月、DOWA グループ従業員の家族を対象としたエコイベントを東京本社で開催しました。当日は秋田や熊本など全国から参加した71名（子供40名、大人31名）の家族と、企画会社「ケミカルエンターテインメント」のメンバーによる、「夢の工場」をテーマにしたワークショップを行いました。2013年度のワークショップはストーリー仕立てで、子供たちは「夢の工場」でお菓子作りに見立てた「空気砲の実験」や「風力で光る LED ライトの工作」を行いました。

この取り組みは、子供たちが家族の働く職場を訪問し親子一緒に環境教育を行う機会を提供することで、当社の仕事をより深く理解し、同時に環境への意識向上を目的として始まりました。毎年、CSR 部門で生物

## ワーク・ライフ・バランス

DOWA グループのワーク・ライフ・バランスは、従業員がそれぞれのライフスタイルに応じて能力を最大限に発揮できるよう、仕事と家庭生活の両立を重視し、フレックスタイムなどの柔軟な勤務制度や子育て・介護目的の休暇制度の導入など、職場環境の整備を行っています。

#### ○制度取得状況

年々各制度の利用者数は増加しており、2013年度は育児休暇者が12名、育児に伴う短勤務制度の利用者が4名となりました。また、子の看護休暇は男性10名、女性5名の取得がありました。

#### ○次世代育成支援行動計画

2013年度は新たな次世代育成支援行動計画を策定しました。法に定められている以上の、当社独自の具体的な支援策として、子の看護休暇の有給化（5日まで）、育児を理由とした場合の

転居を伴う異動の制限等を導入しています。2014年度は、制度内容の認知度向上による利用率の上昇を目指します。

また、現行のコアタイム無しのフレックスタイム制度等のほか、労使協調した取り組み強化や新たな勤務管理システム導入により、労働時間管理を徹底することで、総労働時間の低減を図ります。

#### ○アンケート

CSR 部門では、毎年新入社員を対象としたアンケートを実施しています。2013年度は、40%以上がフレックスタイム制の活用や、ノー残業デーを希望していました。その理由として、語学や資格取得などのキャリア形成のために時間を活用したいという意見が多くありました。これらの意見も踏まえながら、今後もワーク・ライフ・バランスの取り組みを進めていきます。

多様性やリサイクルなど環境に関するテーマに沿った企画を考え、楽しみながら実施しています。

今後は、本社だけでなく地方の事業所での開催支援を行うなど、取り組みの展開を進めます。





# アンケート結果

## CSR 報告書 2013 へのご意見・ご要望

DOWA グループの CSR 報告書は、株主・投資家、お取引先、お客様、地域の方々など、多くのステークホルダーの方々にお読みいただけるよう、株主総会、展示会、環境イベントなどさまざまな機会を通じてお届けし

ています。また、CSR 活動をお伝えするため Web サイトを通じて過去の報告書をすべて掲載しています。

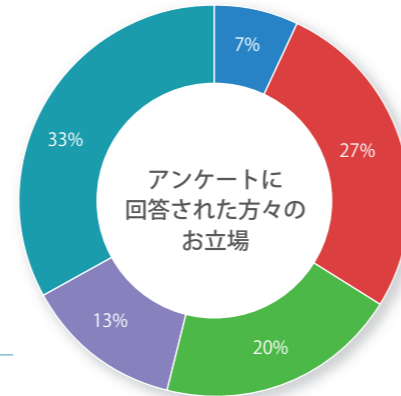
今後の活動や報告書の改善に反映させるため、CSR 報告書の読者の方々にご意見・

ご要望をいただくアンケートを実施し、お寄せいただいたご意見・ご要望、また前年度の第三者意見を報告書制作に活かしています。

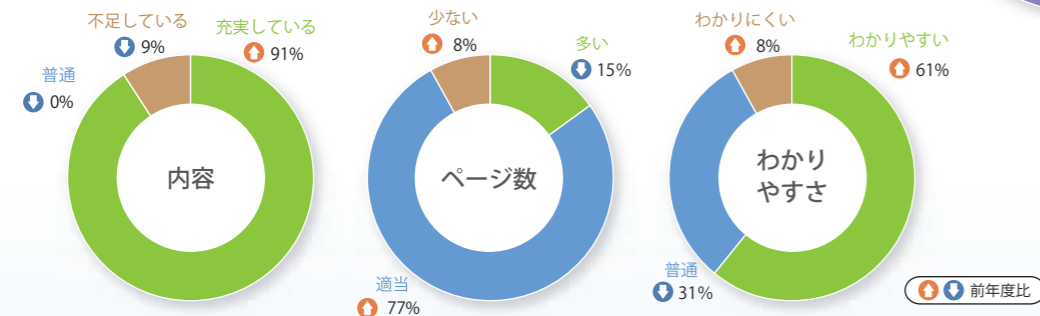
### アンケートにお寄せいただいた声

読者の方々から数多くの貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。以下に、その内容をご報告いたします（主なご意見については要約を行っています）。

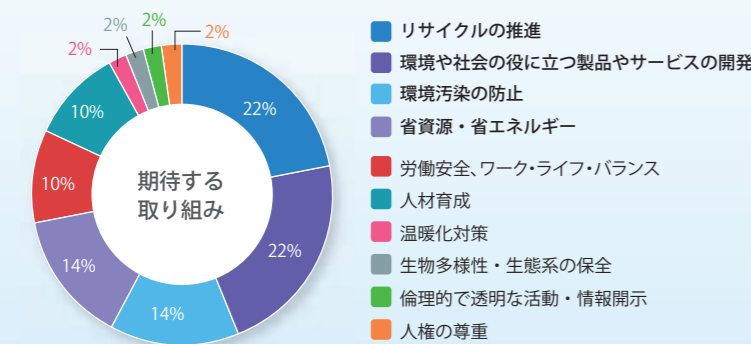
- お客様・お取引先
- 株主・投資家
- DOWAグループ事業所の近隣にお住まいの方
- DOWAグループ従業員、家族
- その他



### ○報告書について



### ○DOWA グループの CSR の取り組みについて期待されること



#### 〈主なご意見〉

- ・エコプロダクツのページは、循環している事業イメージが一目で感じられる
- ・本来の事業のほかにこれほどの取り組みを積み重ねており、感心します
- ・事業報告書と融合させて 1 冊にしてほしい

### ご意見・ご要望に対し、CSR報告書2014で改善した主な項目

ステークホルダーの方々からいただいた貴重なご意見を反映して、CSR 報告書 2014 を編集いたしました。

#### ■アンケートより

- ・項目というよりも、どこに着目すればいいのかわかりづらかった
- ・重点施策について、具体的な記述が不足  
⇒ 今年度の報告書より、CSR 方針の分野ごとに構成を変更し、重点的な取り組みについては詳細にご報告するようにいたしました

#### ■第三者意見より

- ・目標が項目レベルで具体的でない  
⇒ CSR 方針「企業統治」「安全」「環境」「社会」の 4 分野の課題ごとに、2014 年度から指標を追加
- ・公共政策に対し、会社の方針や考え方について説明が必要  
⇒ P24 の政府・自治体・産業界との関わりに、当社の考え方と取り組みの一例を記載

今後も CSR の取り組みや報告書に対していただいたご意見・ご要望につきまして、社内で十分検討の上、CSR 活動へと反映してまいります。

# 第三者意見

## DOWA CSR 報告書 2014



株式会社イスクエア  
代表取締役社長

### 本木 啓生 (もときひろお)

イスクエアは、企業の戦略的 CSR・環境経営の支援を通して持続可能な社会の実現を目指すコンサルティング会社。2001 年 4 月よりイスクエアのコンサルティング事業の統括として、多岐の業種にわたる大手企業を中心に、戦略、コミュニケーション、教育、BOP などの各分野における支援を行っている。2011 年 10 月代表取締役社長に就任。2005 年より東北大学大学院環境科学研究科非常勤講師を務め、その他 CSR 関連の講演活動も多数行っている。

### CSR 報告書 2014 報告内容について

山田社長が巻頭言において、DOWA グループの事業は事業環境の劇的な変化に合わせ、「5 つのコアビジネスからなる独自の循環型事業」へと変化を遂げていることを伝えています。そのことを証明するかのよう DOWA グループは増収・増益を継続しており、世界人口の増加に伴い資源枯渇が叫ばれる中、循環型社会の形成に向けた多様なニーズに事業を通じて的確に応えられていることが推測できます。

今年の CSR 報告書の特徴は、DOWA グループが考える社会課題に関して、「DOWA の事業と社会課題」というページにおいて、資源の有効利用に関する社会課題とそれに対する DOWA グループの事業を通してのアプローチをまとめたことでしょうか。昨年は特集の一つという位置付けでしたが、今年度は 1 ページを割いて説明していることで、社会の課題解決に貢献しつつ、自社の利益にも結び付けていくというシェアードバリュー（CSV）の発想を重視していることが読み取れます。さらに具体的に社会課題と事業の結び付きが説明できると、DOWA グループの社会における必要性や必然性がより深く理解できると思います。

またもう一つの特徴は、2013 年度の活動実績および報告書全体の構成を CSR 方針の 4 分野の切り口で再整理したことでしょうか。このことにより DOWA グループが推進する CSR が一貫性をもって示されることとなり、シンプルで分かりやすい構成となりました。

各テーマの取り組みでは、鉱山活動など社会のバリューチェーンの上流に位置する企業として、紛争鉱物への対応は必要不可欠なものとなっています。「DOWA グループ紛争鉱物管理方針」を定めたこと、「紛争フリー製錬」として認定するプログラム（CSF 認証制度）に取り組んでいることは、持続可能な事業を営む上で極めて重要な一歩となります。

各事業においてもさまざまな取り組みが行われており、DOWA メタルマインが原料を枯渇性の鉱石からリサイクル原料に転換するという世界初となる大転換を成し遂げたことは、特に目を引きます。

### さらなる改善に向けて

活動実績の一覧は、目標と施策と実績の欄が切り分けられ、昨年より格段に分かりやすいものになっています。しかし現状は、目標としては項目のみの表記となっているので、到達点を掲げた具体的な目標になるとよいと思います。

CSR 方針の重点施策として、「CSR 調達ガイドライン」を今後策定するとのことになっている一方、新たに改訂された「CSR 調達方針」の中では、「CSR 調達ガイドラインに基づく調達を推進します」と書かれており、既に存在するかのよう見え、いささか矛盾を感じます。また CSR 調達方針の中で、「DOWA グループ紛争鉱物管理方針」についても触れると良いのではないのでしょうか。今後、CSR 調達方針を具体的にどのように展開していくのかという点についての報告もあることが望ましいと考えます。

### 今後の取り組みへの期待

2014 年度は CSR 中期目標の設定と重点施策の見直しを行うということで、今後の展開を楽しみにしています。各社の実務責任者や担当者によるメッセージなどからも社会の課題に向き合う姿勢と、自社の収益に結び付ける意識がうかがえます。このような思いを持った現場の方たちに支えられることが DOWA グループの現在の強さにつながっているのでしょうか。今後も社会課題に真っ向から向き合い、事業の発展に結び付けていくことに期待しています。